

新撰書式文格

(十一年二月八日)

別紙高知裁判所同ノ
趣ヲ審思スルニ裁判
言波ノ後更ニ執行ヲ
請求セス任再歲月ヲ
經過スル者ハ固ヨリ
期滿得免ノ効ヲ得ヘ
シ何トナレハ裁判言
波ニ因リ裁判ヲ執行
スルノ權義ヲ生セシ

刑ヲ受ク

一何年月日身代限りノ処分ヲ受ケ
何年月日辨償ノ義務ヲ終マフ
右ノ通ニ御座候也
年 月 日 氏 名 印

○代官引續願

免許狀紛失氏名改換
時ノ願書モ此式ニ
倣フ

引續代官營業仕度候ニ付キ免許狀
御下附被成下度此段奉願候也

スルヲ以テ其權義ニ
付必ス期滿得免ノ効
アラサルベカラザレ

年月日

司法卿某殿

本貫住所(寄留ナレバ其寄)
留所ヲ記スベシ
免許代官
氏 名 印

得免ハ訴訟原案ノ種
類ニヨリ期滿得免ノ

○寺院住職進退願

一私義病氣ニ付寺役難勤候ニ付隱居
又事故アリゴシラシヨク
テ何寺轉任後任職之儀
何寺又誰等誰
子新免智
ハ相續任轉為仕度候依而履歷書相添
連署之上此段奉願候也

新撰書式文格

シムルノ理アルヲ以テナリ我國現行出訴期限(六年第三百六十二号布告)ヲ視ルニ裁判執行ノ出訴期限ニ於テハ明文アルヲナシ而シテ其最モ長キ者五年ナリトス因テハ諛伺ノ如キ訴訟原案ノ種類ニ拘ハラヌ滿五年ヲ以

何年何月何國何所何寺ニ於テ得度ス何年何月ヨリ何年月迄何所何寺

○全履歷書

何縣下何國何郡何村番地

何郡何村何番地
何寺住職
氏 名印
全
組合惣代 氏 名印
全
檀中惣代 氏 名印

テ期限トナスルニ當ト思考スルニ因リ左ノ通指令可及ト存候得共明文ナキヲ以テ此段申稟候也

ニ於テ修學何年月日何縣下何國何郡何村何番地何院寺住職何年月日教導職何講義拜命ス
右之通相違無御座候以上

丙号指令
伺ノ趣裁判執行ノ出訴期限ハ出訴期限規則第三條準拠シ五ケ年タル可

○住職解免願
何郡何村何番地
何縣何寺住職
何宗何寺住職
氏 名

第五章

訴訟入費償却規則

明治九年四月廿二日
司法省達第百五号

訴訟入費償却規則左

ノ通改正候条此旨布

達候事

第一條 訴狀其外書

類認料 (一枚十六行
付十銭但一枚
以下モ全價)

一私儀從來當院住職罷在候処元來

負寺ニテ何分ニモ活計立兼候ニ付

此度断然ト歸俗仕度候間何院住職

御解免被成下度奉願候也

年月日 右 氏 名印

公債証書書替願

私儀何縣下何國何區何町何之誰ヨ

リ別書見金高之証書ヲ讓受候ニ付テ

右定限

第一 原告ノ訴

狀ノ正本副本

第二 被告人ノ答

書ノ正本副本

第三 訴狀又ハ答

書中ニ記載シ難

キ證據ノ書類ノ

寫

第四 審判中原

ハ私姓名ニ御書改メ被下度此段奉

願候也

年月日 住所番地 讓受人 氏 名印

讓渡人 氏 名印

公債証書讓渡ニ付檢印願

一公債証書何千何百圓也

内一何百圓何枚

右証券此迄所持罷在候処此度何府

告又ハ被告ヨリ
差出シタル證據
ノ書類ノ写

第五 訴訟中訴狀

ニ關係スルノ事

件ニ付原被告方

往復ノ文書

第二條 証人並ニ引

合人

手當一日ニ付五十錢

何郡何柵番地何某ハ讓渡候條右公
債証書相添差出候間御檢印被成下
度此段奉願候也

年月日

住所番地

氏

名印

○公債証書御引替金並二年々利
子拜受之儀御願

一公債証書何百何拾圓也

一何百圓

イロハ印等此
処ニ記載ス

但シ八里以外ヨリ
罷出止宿ノ者ハ二
十五錢ヲ増ス

右定限

裁判所ニ出席ヲ為

シタル日

第三條 証人並ニ引

合人滿八里以外
ノ地ヨリ來リ滯留
中ノ手當一日ニ付

右所持罷在候處此度何府何國何郡
何柵番地ニ寄留仕候ニ付右証券追
テ御引替之金並二年々利子御渡之
儀者右寄留地ニ於テ拜受仕度此段
奉願候也

年月日

住所身分

氏

名印

○公債証書御買上願

一公債証書何千何百圓也

五十錢(本条ハ明治九年四月司法省甲第六号布達ヲ以テ執行停止)

第四條 證人並ニ引

合人旅費 滿八里ニ付十錢 歸路モ全斷

但シ八里ヲ越ユレハ每滿一里ニ付十錢

右定限

右者去ル何年何月家祿何百石奉還

相願候処既ニ本年何月正金何百何

拾圓奉拜受候 且亦本年何月右公債

然ルニ未タ右公債証書御下ケ渡ニ相成

書御下ケ渡ニ相成候得共今般公

布ニ基キ御買上ニ相成度此段奉願候也

年月日

住所身分

氏

名印

貯金預リ御願 第一式

第一 兩線ノ官道

甲路ハ遠ク乙路

ハ近キ時ハ現ニ

甲路ヲ經ルトモ

モ乙路ヲ以テ計

算スヘシ

第二 本條ハ日本

國管内ヲ通行ス

ル者ノ為メ設ク

第五條 原告人又ハ

私儀日々渡世万事節儉ニ活計相立

テ候処聊ノ餘金何程出来候ニ付何

地郵便役所ヲ經テ御本寮へ御預リ

相願申度依之御聞届相成候上ハ總

テ御規則之通相守可申此段奉願候

候也

住所身分

氏

名印

年月日

驛遞頭氏名殿

被告人直ナル者ノ
手當 一日ニ付五
十錢

但シ八里外ヨリ罷
出止宿スル者ハ二
十五錢ヲ増ス

右定限

第三條ニ同シ

第六條 原告人又ハ
被告人直ナル者ハ

前書之通氏名願之上旨相違無之候
右ニ付若シ不都合之儀出来候節ハ
証人引受可申候也

住所身介 氏 名印

○全 第三式

今般同志之者共何名申合セ私其總
代人ニ相成平素生産節儉之餘金何
程何地郵便御役所ヲ經テ御本寮ヘ

里以外ノ地ヨリ来
リ滞留中手當
一日ニ付五十錢

(本条ハ明治九年四月
司法省甲第六号布達
ヲ以テ執
行停止)

第七條 原告人又ハ

被告人直ナル者旅
費 滿八里ニ付十
錢 歸路モ全断
但シ八里ヲ越ユレ

御預リ相願度一同之了簡ニ罷在候
間右之儀御聞届ニ相成候上ハ然テ
御規則之通ニ相守可申候依之同志
之者連印ヲ以テ奉願候也

住所番地 氏 名印
年月日 氏 名印

宛名合上 已下連名

○全 第三式

私儀何地郵便御役所へ貯金御預リ

ハ每滿一里ニ付十錢

右定限

第四條ニ同シ

第八條 通辨倉料

一日ニ付三圓

右定限

第二條ニ同シ往返

旅費ヲモ定額通

計算スヘシ

相願置候処今般適宜ニ依リ何地郵

便御役所へ預ケ替相願度候尤モ其

御役所ニ於テ向後從前之通預ケ方

並ニ受取戻シ仕度候間宜敷御指令

奉願候也

年月日

住所番地

名印

宛名人上

書面願之趣當役所ニ於テ更ニ差支無之候ニ付此段御聞届被成度矣也

第九條 翻譯料

(一枚ニ付十六行十

五字詰二円但シ一

枚以下

モ全價)

右定限

第一條ニ同シ

第十條 測量繪圖認

料

右定限

第一長三百間ニ

テ尽ル時ハ

何縣何郡郵便役所詰

年月日

何縣何地

氏名印

郵便役所

氏名殿

○全 第四式

一金何圓也

右之金額受取戻シ度何地郵便御役所ニ於テ御渡可相成之旨被仰渡度

百間ニ付一尺ノ割
西ノ内一枚ニ付
十錢

第二 長六百間迄
百間ニ付五寸ノ
割西ノ内一枚ニ付
十二錢

第三 長千二百間
迄
百間ニ付三寸ノ

此段奉願候也

年月日
住所番地
氏名印

宛名全上
前書出願之趣証書式及_ル通帳共
照查致_シ候処相違無_クニ付右証
書何枚相添へ此段申入候也

年月日
何縣何地
何縣何郡何地
郵便役誥
氏名印

割同十四錢

第四 長六千間迄
百間ニ付二十ノ
割同十七錢

第五 長一萬二千
間迄
百間ニ付一寸ノ
割同二十錢

第六 長一萬二千
間以上

郵便御役所
氏名殿

○全 第五式

一金何圓也

右者私預_ケ金額_ニ金高_ク又_ハ内_ノ數_ニ候_ル処今般
何地郵便御役所ニ於テ受取_ル度
候依_テ之御指_シ令書_レ被_レ仰渡候様奉願候
也

氏名印

百間ニ付五分ノ

割同廿四錢

一測量ニ及バサル見

取繪圖ハ間敷ノ長

短ヲ論セス大凡見

積ヲ以テ簡便ニ

圖引致ス可シ

但シ西ノ内一枚

ニ付十錢

第十一條 使賃

宛名全上

前書願之儀不都合無之候間願之

通御聞届指合狀即千被渡下候也

何處何地

郵便役所詰

氏名印

氏名殿

○差入物御願

一何品

一何々品

滿一里毎二十錢一

里未滿ハ五錢

但シ歸路モ全斷

右定限

第一 裁判所ニテ

示談中双方承諾

ノ上原告被告双

方又ハ一方ノ者

ヨリ遣シタル便

賃

一何點

右者何月何日ヨリ懲役場監倉又ハ田置罷

在候私夫或ハ父兄 親族等誰ハ書面之品々

差入申度奉存候ニ付此段奉願候也

住所番地

氏名印

年月日

○水車營業御願

何郡何村之内

字何所私有地

第二 裁判所ニテ

示談中原告又ハ

被告一方ノ者裁

裁判後ノ檢印ヲ

經タル使賃

第三 原告又ハ被

告一方ノ者出訴

中違約シテ出

席セサ時裁判

役ノ檢印ヲ經テ

一水車 何ヶ所

車輪差渡 何尺

粉確 數 何柄

挽 有無

右者新規營業仕度尤モ土地或ハ用

水路等ニハ聊力故障無之候間別紙

苗面ヲ以此段御許容之程奉願候也

住所番地

年月日

氏名印

違約ヲ責ムル使

賃

第四 原告被告双

方ノ為メ又ハ一

方ノ為メニ双方

又ハ一方ノ者ノ

申上ニ内リ裁判

所ヨリ臨時ニ違

ハミタル使賃

第十二條 郵便電信

○板圍之願

一私抱屋敷第何番地空地へ新規建

家仕候ニ付本日ヨリ来ル何月日迄日

數何日之間板圍仕度尤モ往來之妨

ニ不相成様可仕候間此段奉願候也

住所番地

年月日

氏名印

○足代之願

一私居宅表口何間家根先破損致シ

電信料 定價

右定限

第十一條 身代限ヲ

第十三條 身代限ヲ

為スニ付裁判所又

ハ縣廳又町役場ニ

納ムヘキ評價人鑑

定人等ノ日雇賃金

ノ諸入費及ヒ身代

限諸雜費 臨時

候ニ付普請中本日ヨリ来ル何月日

追丸太木ヲ以テ足代致シ度奉存候尤

モ往來之妨ケ不相成様可仕候此段

奉願候也

住所番地

氏

名印

○家作成功板圍取拂届

一當何組何町何番地 私抱郎表口何

間ノ建家新規造作仕度候段本年何

計算ヲ以テ定ム

右ハ前數條ノ入費

ニ先ツテ取立ツ可

明治十二年十月廿七日
司法省布達甲第百三十三号

明治九年第五号布達

訴訟入費償却規則中

差添人ニ係ル件々一

切削除候条自今民事

訴訟差添人ノ費用ハ

月日奉願大道兩落御檢査之上御開
届ニ相成御書下通普請仕則成就仕
候間板圍取拂申度此段奉願候也

年月日

住所

氏

名印

○物品献上御願

一何品 何程

一何品 何程

右者乍聊何々供用ノ為メ献上致シ

新撰書式

訴訟入費トシテ請求スルヲ得ス此旨布達候事

(明治十二年三月十四日 司法省達丁第十号)

民事訴訟上ニ付人民喚出状送達費用等余儀ナク一時裁判所ヨリ立替渡シタルモノハ其時々直チニ詞訟人ヨリ取立ヘシ但

度此段奉願候也

年月日 住所番地 身分 氏 名印

○献金御願

一金何程

右者當願下貧民學校或ハ御設立ニ付御資金ノ内へ御採用被成下度此段奉願候也 住所番地

シ裁判落着ノ上八曲

者ノ辨償ニ歸スヘキ

ハ勿論タルヘキ事

右ハ為念此旨相達候事

(明治十二年十二月廿一日 司法省達丁第廿六号)

訴訟入費云々ノ義十一年丁第四十四号ヲ以テ相達置候處左ノ通改達候条此旨可心

年月日 氏 名印

○拾物御届

一紙幣 何拾枚

内 壹圓 何枚 拾錢 何枚

一何品 何箇

右今何日午 幾何時頃何所通行致シ拾得候間此段御届申上候也 住所番地

年月日 氏 名印

新撰書式

三頁八十四

得事

訴訟入費ハ曲者ヨ
 リ直者ニ辨償スヘ
 キハ當然ノ事ナル
 ニ付裁判言渡ノ節
 ハ必ス曲者ノ弁償
 ニ帰スヘキ旨言渡
 スヘシ

(明治十二年三月十四日)
 (司法省達丁第十号)
 裁判費訴訟費ノ義

盗難御届

本月何日又ハ表裏ノ戸口等夫々締
 リ相付家族一同相卧候処何時目ヲ
 覚シ又物音家内ヲ見廻リ候処何処
 ヲ切破リ或ハ押盗賊忍入又ハ抜刀
 入金錢可差箆等筭又ハ何銃前ノ破
 出音申威シ目録ノ通盗取奪取
 リ金錢衣類左ノ目録ノ通盗取奪取
 ラレ候此段御届申上候也

ニ付別紙ノ通大審院
 へ相達候条此旨為
 得相達候事

大審院へ達 (明治十
 二年三月叶)

裁判費訴訟費ノ義
 過般及答議候處右
 取消シ別紙ノ通相達
 候事
 別紙

住所番地 年月日 氏名印

被盜品目録

- 一金何百何十圓何錢
- 紙幣 何圓
- 銅貨 何程
- 衣類 何点
- 一何品 何点
- 右之通ニ候也

(第一例)

初告ニテ(原告甲勝 被告乙負)
 乙入費ヲ拂フ
 控訴ニテ(原告甲勝 被告乙負)
 甲ハ初告控訴兩件ノ入費ヲ拂フ
 (破毀セス)上告ニテ
(原告甲勝 被告乙負) 甲ハ總テノ入費ヲ拂フ

(第二例)

○遺失物届
 一金貨 何程
 一何品 何点
 右者昨何日午後何時頃何所ヨリ何町迄通行ノ途中ニテ取落候間此段御届申上候也
 住所番地 氏 名印
 年月日 改印届

(破毀ス)

初告ニテ(甲勝或ハ 乙負)
 控訴ニテ(甲勝 甲ハ)
 初告控訴ノ入費ヲ拂フ
 (破毀ス)上告ニテ(甲勝 乙負)
 乙ハ上告入費ヲ拂フ而メ甲ハ控訴マデノ乙ノ入費ヲ既ニ償ヒシ

改印印

右者私從來所持之實印ニ候處磨滅仕候ニ付更ニ改印仕候此段御届申上候也
 住所番地 氏 名印
 年月日 實印新調届
 印鑑
 右私儀從來實印無之二付今般印鑑

ナラバ取返スヘ

第三例

此例ハ大審院ニ於テ破毀シタル後第ニノ上裁ナリ判付ニ移シタル場合此時負者ハ初告ト第一控訴ト第三控訴ト都合三件ノ入費ヲ拂フ可シ上告入費ニ至テハ其上告ノ負者之ヲ拂

之通新彫仕向後相用ヒ申度候間此

段御届申上候也

年月日

住所番地

氏名印

但シ戸長役場へ届出若シ土地ヲ有スル者ハ地方廳へ届出地券臺帳へモ調印ス

孝子届

何國何郡何町番地
身分職業
何誰何女

ヒ第二控訴ノ負者ハ之ヲ拂フベキニアラス

第六章

訴訟用封紙規則

明治八年十二月廿日
布告第百九十六号

今般訴訟用封紙規則別冊ノ通相定來明治九年二月十五日ヨリ施行候条此旨布告候

何年何月
何女
何年何月

右ノ者共義父誰没後引續母たれ儀モ永々病床ニ打卧シ暮方差支へ候処姉たれ儀ハ町小使ヒニ相雇ワレ其間ニハ晝夜トモ妹たれト賃仕事等無怠相勵ミ殊更在宅中ハ母ノ側ヲ離レス其日見聞ノ事共物

事

訴訟用紙規則

第一條 凡訴訟ヲ生

シ公裁ヲ仰カントス

レハ此規則第九

條中第一項第三項

第三項第四項ニ照

準シ原告被告共裁

判官ニ差出ル訴答

及ヒ証書ノ写等一

語リ兎角病人ノ心ヲ相慰メ姉妹睡

敷活計相管難波ノ中孝養相盡シ

実ニ可賞譽者ニ御座候間此段御

届申上候也

何郡何町番地

身分

氏

名印

年月日

○節婦御届

何國何郡何町番地

切ノ書面ハ其類ノ

紙ヲ用フ可キ事

但訴答等ノ表

紙書式等ハ訴

答文例ノ通タル

ヘキ事

第二條 訴答文例中

原告人へ取ルヘキ

被告人住所書附並

此書附ヲ得ル為メ

身分職業

何誰妻

何年何月

右之者天性温順ニシテ日夜長病ノ

夫ニ事ヘ何々ノ負節ヲ盡シ実ニ可

賞譽者ニ候間此段御届申上候也

住所番地

身分

氏

名印

年月日

○小學入校願

町役場ノ文通ハ第九條中第五項ノ封紙ヲ用フヘキ事

第三條 訴訟中其事ニ關シ証拠ニ為サントスル原被告人互ノ文通モ第五項ノ封紙ヲ用フヘキ事若シ此封紙ヲ用ヒサル者ハ裁判上証

何郡何町何番地
身分職業何誰何男

何某
年 齡

右之者此度學齡適當ニ付當學校ヘ入学奉願候尤モ校中規則ノ義ハ聊違背為致間敷候也

年月日 右 父兄 氏 名 印

何郡何々學校

抛タルノ効ナキモノトスヘキ事

第四條 人民ヨリ官府ニ關涉スル訴訟ニ付官府ヨリ裁判官ニ差出ス書面モ同シク此規則ニ照シ封紙ヲ用フヘキ事

第五條 以上ニ掲ク

學務委員
教員 御中

○學校不參届

一私幾甥何某昨日以來感冒ノ氣味ニテ太ダ苦痛致居候ニ付本日ヨリ出校難為致候間此段御届申上候也

住所番地
生徒ノ父兄
氏 名
年 月 日

新撰書式文格

ル封紙ヲ用ヒサル
書面ハ裁判官ハ受
理セス

第六條 裁判所ヨリ

原被告人或ハ引合

人等呼出狀ハ都テ

第五項ノ封紙ヲ用

フヘキ事

第七條 訴訟用封紙
ハ買求メ差支無之

何學校 御中

○退校御願

住所番地

身分何誰何男女

何某

右入学ノ上修業罷在候処今般職業

ノ為メ或ハ他へ雇入又ニ遣シ度候

ハ養子女又手藝校入学ニ遣シ度候

年月日

右父兄 氏名

何學校 御中

○外國人雇入届

何國何所

族籍

学士(技術) 姓名

年 齡

第八條 賣捌所ハ訴

訟用封紙賣捌所

ト大書シ官ノ焼印

アル者板ヲ掲クヘ

キ事

第九條 訴訟用封紙

用方並種類定價左

右者今般何學校相設ケ候ニ付示談

之上右某ヲ一ヶ月ニ金何百圓ヲ以

行...

三百九十

之通

第一項

金十圓
米五十石
雜穀十石

未滿 黃色封紙 定價一枚 金一錢

但シ一枚十六行一行十五字詰以下皆全シ

金十圓以上百圓
米五十石以上五十石
雜穀十石以上百石

未滿 黃綠色封紙 全 金二錢

金百圓以上五百圓
米五十石以上二百五十石
雜穀百石以上五百石

未滿 橙黃色封紙 全 金三錢

金五百圓以上千圓
米二百五十石以上五百石
雜穀五百石以上千石

未滿 綠色封紙 全 金四錢

テ本月何日ヨリ来ル何年何月マテ

金千圓
米五百石
雜穀千石

以上 黑色封紙 全 金五錢

第二項

人事ノ類

(但家督相續養子宿人等ノ一ニ關スル訴訟ヲ云)

月色封紙 定價一枚 金二錢六厘

第三項

土地並建物ノ類

(但地所境界田畑建家等ノ訴訟ヲ云フ)

紫色封紙 同 金二錢四厘

第四項

雜事ノ類

(但以上三項ニ關セサル一切ノ訴訟ヲ云フ)

紅色封紙 同 金一錢二厘

第五項

文通ノ類

(但裁判所ヨリ原被告人等呼出狀其外州役場及原被告人ノ文通)

第十條

第十一條

(右二条ハ裁許用紙紙ニ係ルヲ以テ思ス)

第十二條 訴訟中裁

判所ヨリ原告人等呼出ニ用フル紙員數ノ定價ハ曲者ヨリ三日内ニ裁判廳へ辨納スヘキ

赭色紙 同 金五厘

都合満三年間雇入候約條書為取替仕候間此段御届申上候也

年月日

備主

氏

名印

保証人

名印

前書目ノ通ニ付奥印候也

右甲村 戸長

氏

名印

事

第十三條

官許賣捌

所ノ外ニテ訴訟用紙紙ヲ販賣スル者ハ其品取上ケ販賣シタル紙紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ買受タル紙紙代ノ五拾倍過料

轉檀寺替届

私儀從來何區何柯何宗何寺且那寺ニ有之候処今般信仰ニ因テ何所何宗何寺へ轉檀致度候ニ付右兩寺へ及示談候処少シモ故障無之候条此段御届仕候也

年月日

住所番地 氏

名

改宗届

可申付事

第十四條 罽紙ヲ賣造スル者又ハ賣造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ其品取上ケ九十四以内ノ過料可申付事

第十五條 前條ニ掲ル犯則人ヲ見認メ

一私儀從來何所何宗何寺檀家ニ有

之候処遠隔ニテ寺役法用差支或ハ他又ハ不便利候ニ付今般何町村何宗何寺へ轉宗仕度因テ元受場ノ寺院へ通知双方致承諾候間此段御届申上候也

年月日

住所番地

氏名

○葬式改行届

一私儀從來何所何宗何寺檀家ニテ

訴出ル者ハ事實取糺シ相違ナキニ於テハ賞トシテ其過料ノ半高下ケ其フベキ事

(明治九年五月十八日) 布告第七十三号

各地方ニ於テ訴用罽紙賣切レ之ヲ為シ出訴人出訴期限ノ盡キントスル時ヨリ尋常

佛葬修行致求候処今般亡母ノ希望ニ因リ何郡何村何社神官へ依頼シ神葬祭ニ改式仕度依之何寺へ向後離檀ノ義通知致置候間此段御届申上候也

年月日

住所番地

氏名

○癘疾救助願

何郡何町何番地

白紙ニ相認ノ罫紙賣

切レ候旨ヲ添書シ出

訴可致此旨布告候事

(明治九年三月十二日司)

法省布達甲第二号)

明治八年太政官第百

九十六号公布訴訟用

罫紙ヲ刑事ノ告發狀

等ニ相用ヒ候者有之

哉ニ候処右ハ民事訴

訟ニ限リ候儀ト可相

身分職業

氏名

右之者去年ヨリ何病ニ罹リ醫藥

針灸手ヲ尽シ候ヘ氏終ニ手足痺ト

相成營業難相成父母小児ハニシテ

妻ハ其世話病人介抱ニテ何職モ相

成不申且他ニ可助親類無之賓ニ愍

然之事ニ奉存候何卒御救助被成下

度此段奉願上候也

心得此旨布達候事

第六章

地所賃入書入規則

(明治六年一月十七日)

太政官達第十八号)

先般田地永代賣買

被差許候ニ付自合賃

入書入致シ候節ハ左

ノ規則ノ通可心得

事

地所賃入書入規則

何郡何町

戸長 氏 名 印

○困窮人救助願

何郡何町番地

何高 氏 名

右之者昨年夏何々病全家ハ傳染

妻子悉ク致死亡營業モ難相成又他

ニ助クヘキ者モ無之候間賓ニ宛迫

第一條 金穀ノ借主

地主ヨリ返済スヘ
キ証拠トシテ貸主

(金主)ニ地所ト証文
トヲ渡シ貸主其作

徳米ヲ以テ貸高ノ
利息ニ充候ヲ地所

ノ質入ト云フ

第二條 金穀ノ借主

(地主)ヨリ返済スヘ

罷在候ニ付御救助被成下度此段奉

願候也

何郡何村

戸長 氏

名印

○村民救助御願

何郡何村 昨年何月 風水ノ災害ニ罹

リ一時宛迫罷在候内別紙人名之者

必至難澆罷在候何卒御救助被成

キ証拠トシテ貸主

(金主)ニ地所ト証文

ノ証文ノミヲ渡シ

借主ノ作徳米ノ全

部又ハ一部ヲ貸主

ニ渡シ利息充候

第三條 金穀ノ借主

(地主)ヨリ返済スヘ

キ証拠トシテ貸主

下度此段奉願候也

何郡何村

戸長 氏

名印

○出火御届

今何日午 前何時頃當何町何某宅ヨ

リ出火候処全第何時鎮火仕候依之

別紙手續書相添此段御届仕候也

年月日

住所番地

氏

名印

(金主)ニ地所引當
證文ノミヲ渡シ借
主ヨリ其利息トシ
テ米又ハ金ヲ拂ヒ
候ラモ亦書入ト云
フ

第四條 地所ヲ質入
ニ致シ候節ハ地券
ヲモ相渡シ可申其
年期ノ儀ハ三ヶ年

○燒失家建並ニ失家手續

何區何柵何番地

一建家 何軒

内 居室 何軒
土藏 幾棟

右昨日午ナニタレタク前何時何誰宅ニ階、下屋

ヨリ出火燒失仕候折柄何風吹起リ

火勢甚敷終ニ何誰宅類燒致シ何方

角何番地何誰方ニテ鎮火全ク過ニ

住所 何誰所持

テ怪火ニハ無之候
右之通相違無御座候也

年月日 火元 氏 名 印

○說教會座御届

一私宅ニ於テ明日午後何時ヨリ同

何時マテ教道守職神官住所何某或

何寺某ヲ頼ミ說教會座取設ケ度

ヲ限ル可シ尤三ヶ
年以下期限取極
候儀ハ勝手タルハ
ク且ツ年限取極候
廉ハ判然証文面ニ
記載致シ置可申
事

但書入ノ儀ハ地
券ヲ相渡スニ及
ハス其年限長短

共本文ノ限ニア
ラスト雖モ双方
相對ニテ取極候
年限ハ本文全様
證文面ニ記載致
シ置可申事

第五條 質入又ハ書
入ノ地所期限ニ至
リ質主借主相談ノ
上金穀ヲ返サスシ

允聽衆ヨリ金錢毛頭受領不仕矣間
此段御届申上候也

年月日

住所番地

氏名

○遊藝枕昔古浚御届

一本日午後何時ヨリ同何時迄
私ニ於テ何連中或之者相集リ

テ地所ヲ引渡候節
ハ田地主ヨリ人並主
ハ可引渡旨別紙ニ
相認メ其地ノ戸長
加判ノ上金並主ヨリ

地券相添確認証
ヲ可願出事

第六條 質入レノ地
所ハ人並主ニテ其地
所耕作可致旨ニ

小誦明清樂合奏 枕昔古浚仕候尤モ
歌舞琴三味線 茶料等申請候儀決テ無之候間此段
御届仕候也

年月日

住所番地

氏名印

○勧進相摸興行御願

本月何日ヨリ全何日マテ晴天十日
ノ間何柵何番地面ニ於テ三府
ノ相摸取雇入興行仕度奉存候尤營

付テハ地租諸役ト
モ総テ金主ニテ可
相勤事

但其段管轄廳

へ届出證書可差

出事

第七條 書入ノ地所

ハ地主ニテ耕作致
シ候儀ニ付地租諸
役トモ無論地主ヨ

業ノ儀ハ毎日午前六時ヨリ相始メ
午後五時限リ且御規則ノ通税金相
納候間御聞届被成下度奉願候也

住所番地

眞行人 氏

相模年寄 氏

名印

名印

年月日

○借地興行物願

此度私義何區何柵身分何ノ誰所
持地何所別紙繪畷面ノ場所地主熟

リ可相勤事

但管轄廳へ届出

ニ不及候事

第八條 管轄違者

或ハ同管轄ト雖モ
懸隔地所ヲ質ニ
取候ハ即ハ其現地ノ

村町ハ金主ノ名代

人相定置其地租

諸役トモ差支無之

議ノ上全所ニ於テ日數何日ノ間借

受小屋取設何々興行仕度尤臨時御

用ノ節ハ速ニ取拂可申候右御聞許

ノ上ハ右税金トシテ何日ニ付金何

程上納仕度此段奉願候也

住所番地

氏

名印

年月日

○軍談興行願

様可為相勤事

第九條 質入又書

入證文ニハ必ス其

村町戸長ノ與書証

印ヲ取ル可シ其村

町戸長ノ役場ニ

與書割印帳ヲ備ヘ

置証文ノ與書割印

ヲ願出ル時ハ帳面

ト證文トニ番号ヲ

一今般何區何町何番地ニ於テ表ル

何日ヨリ幾日ノ間軍談興行仕度允

御布令ノ趣意屹度相守可申候間御

開届被成下度此段奉願候也

住所番地

氏名印

○小屋掛興行願

一私義今般何隣何町何番地ハ空地又

朱書シ割印ヲ押シ
與書ヲ為ス可シ若
シ戸長ノ與書並ニ
割印ナキ證文ハ質
入又ハ書入ノ証拠
ニ不相成ニ付右証
文ヲ以テ訴出ルニ
於テハ負債主財産
分散ノ時債主他ノ
債主ニ對シ先取ノ

ニ於テ東西何十間南北何間ノ小屋
掛相管何月日ヨリ何日迄幾日間カ
芝居足藝カ別紙藝人何騎鑑札所持
持競馬縮渡別紙藝人何騎鑑札所持
之者相雇興行仕度候尤御規則ノ趣
堅ク相守火之元嚴重ニ仕候間御許
容被成下度此段奉願候也

住所番地

氏名印

年月日

特權ヲ失ヒ獨リ貸

入又ハ書入ナキ金

穀貸借ノ処分ヲ可

受事

但戸長不在節

ハ其旨ヲ記シ副

戸長奥書調印

ス可シ

第十條 一箇所ノ地

ヲ二重三重ニ書入

定席興行御願

一私所有兼テ御願濟定席何郡何町

何番地ニ於テ本月何日ヨリ何月何

日迄日數何十日之間

或新聞雜誌軍談

祭文或西洋手品

興行仕度最モ執入

ノ儀ハ別紙名前書之通御鑑札所持

之者雇入申候此段奉願候也

住所番地

候儀ハ不相成候得

共若シ第一番ノ金

主ヘ引當ニ入レ置

候事ヲ第二番ノ金

主承知ノ上ニテ地

所代金ノ餘分ヲ見

込又其地所ヲ引當

ニ借添ヘ致シ候儀

ハ不苦尤借主身代

限ノ処分ニ相成候

年月日

氏名印

第六章 訴訟ニ關スル文例

○裁判所門入届書

民事 新訴 御門入 何郡何町何番地 身分 氏名

年月日

○但シ勸解或ハ着届ノ節右ニ準スヘシ尤

○勸解代人ヲ出ス時ノ書式

住所身分

節ハ右地所糶賣ノ代金ヲ以テ先ツ第一番ノ者ハ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘金ヲ以テ第二番ノ者ハ元利ノ金數ヲ引渡シ第三番以下右ニ準シ引渡可申若シ糶賣ノ金高ヲ以テ先ツ第一

何々勸解之願

住所身分

原告人氏名

○何々勸解濟口御届

住所身分

原告人氏名

何々勸解濟口御届

何号御掛リ何某殿

御願金高何拾圓

住所身分

被告人氏名

番ノ金主ハ元利ノ金數ヲ引渡シ其餘第二番ノ金主ハ引渡スヘキ元利ノ金數ニ不足スル片ハ其不足ノ分ヲ償フ一並ニ第三番以下ノ金主ニ償フ一ハ平常引當キ債主ニ身代限償却ノ例

一私共儀何々勸解願上候処御説諭

前又ハ示談之上御願金高之内何十

圓受取殘金何十圓ハ用捨致シ一件

無申分濟口ニ相成候間原告人被告

人連印ヲ以テ此段申上候也

二隨ヒ外物品糶賣
代價ノ内ニテ相當
ノ割賦ヲ以テ引渡
可申事

但第二番ノ金ハ
受取候証文ハハ
地所代價ノ餘カ
ヲ見込借添候旨
ヲ書載可申事
第十一條 地所ハ勿

年月日

原告人 氏名 印
被告人 氏名 印

○何々勸解濟口延期之御願

住所身分
原告人 氏名 印
被告人 氏名 印

一私共儀何々勸解奉願候處御説諭
前又ハ示談之上未ル何日迄日延被成

論地券ノミタリト
モ外國人ハ賣買費
入書入等致シ金子
請取又ハ借受候儀
一切不相成候事

第十二條(本條ハ七年
改正)賣入年季中
天災ニテ地所流亡
等其地ノ全形ヲ失
フニ至ル時ハ地券

下度依テ同日午前第何時ニ出頭仕
濟口書差上候間此段原告人被告人
連印ヲ以テ申上候也

原告人 氏名 印
被告人 氏名 印

○何々勸解御下書

住所番地
原告人 氏名 印

番号
御係リ
何某殿

ハ消滅スル理ニ付
 貸主ヨリ借主ニ對
 シ外地所又ハ物品
 ヲ代リ質ニシテ入サ
 セ証文書目替ヲ求ム
 ルヲ得ヘシ若シ
 代リ質ニ差入ル可
 キ地所物品等之レ
 ナキハハ訴訟ノ未
 身代限リノ処カニ

一私儀何縣下何國何郡何町何番地
 何誰ハ相係リ何々勸解願上候処何
 ヲ不取調ニ付不都合之薦有之依テ
 此度之処ハ一先御願下被成下度此
 段願上候以上

年月日

氏名印

○勸解願不調之節請書式

何号

及フベク又池成野
 地成等ニ交換シ或
 ハ闕崩等ノ為メニ
 其地ノ幾分ヲ失フ
 片ハ交換ノ模様及
 残存ノ大小ニ應シ
 規則ニ基キテ地券
 書替願出ヘキ儀ニ
 付若シ其交換殘
 存ノ地ハ貸金殺

御係リ
 何某殿 差上申御受書之事

何縣下何國何郡何町身分住何誰ハ
 相係リ何々勸解願上候処示談不行
 届ニ付勸解不調被申渡奉畏候依テ
 本日不調書御下渡ニ相成正ニ受取
 申此段御受書差上候以上

年月日

氏名印

○證拠物被告人ヨリ差出シ候

高ノ償ヲ為ス足
ラザルト見込場合
ニ於テハ貸主ヨリ
債主ニ對シ外地所
又ハ物品ヲ増質ニ
差入サセ證支書管
ヲ求ムルヲ得ヘ
シ若シ増質ニ差入
可キ地所物品等無
之時ハ是亦訴訟ノ

願下ケノ書式

住所身分

原告人氏 名印

一私儀何區郡何村何番地身分何誰ヘ
相掛ル貸金賣掛ハ勸解奉願候処今般
可適之請取書証發頭致シ候ニ付被
告人連署ヲ以テ談件御下ケ之儀奉
願上候以上

原告人氏 名印

未身代限リノ処カ
ニ及ブヘキ事

但貸主相對示談
ハ格別ノ事

第十三條 質入ノ地

所年期中天災ニ因
リ荒蕪ト相成ハ貸
主(金主)ヨリ起返ノ
見込ヲ定メ借主
(地主)承諾ノ證書

被告人氏 名印

何區何組何柵何番地身分何誰ヨリ
住所身分何誰ヘ相係リ何々勸解被
願上本日出頭可致之御差紙頂戴仕
候処同人儀去ル何月日ヨリ寄苗ハ
繼持參ニテ何所ニ罷越他行中ニ付
呼戻狀差遣シ置候ニ付何日ニハ歸
宅仕候間右日限午前何時迄日延御

ヲ取り其管轄ハ
可願出尤モ入費ハ
借主ヨリ償フ可キ
事

但借主起返ノ入
費ヲ出ス一能ハ
サルキハ証書ヲ
以テ其地所ヲ貸
主ニ引渡シ可申
尤モ相對示談ノ

猶豫御願申上候以上

年月日 住所身分 原告人氏 名印

- 訴狀表紙之書式 三百二十五丁以下ニ出ツ
- 訴狀之式 全
- 貸金催促之訴狀 全
- 賣掛代金淹滞之訴狀 全
- 買附米引渡違約之訴狀 全

処置ハ格別ノ事

第十四條 當合賃入

又ハ書入ニ致シ置
年期中ノ分ハ總テ
前文規則ニ照準シ
當七月限り証文相
改メ可申事

第十五條 (六年百六十

補増) 是迄賃入書
入ニ致置候分ハ前

○ 賣附生糸代金引渡違約之訴

狀 全

○ 妻離別之訴狀 全

○ 經界ヲ爭フ繪圖之式 全

○ 原告人三人以上ナルヲ一人ニ任ス

ル訴狀 全

○ 被告人連名中脱走又ハ病死入

アルノ訴狀 全

約ノ年期据置不替
尤証文面等前文規
則ニ觸候廢ハ総テ
相改可申事

第十六條 (七年七十六
号布告ニテ
增) 従前取結ヒタ
ル質入書入ノ約定
ニテ明治六年七月
三十一日 前ニ期限
ヲ過去リタルハニ

- 答書表紙之式 全
- 對決前熟議解訟之答書 全
- 對決前返済延期ノ約定ヲ為シタル答書 全
- 對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書 全
- 對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書 全

テ債主ニ於テ貸金
返済方ニ付延期ノ
勘弁ヲ加フル者ハ
来十月三十一日迄
ニ其地所所管ノ戸
長役場へ届出地所
質入書入規則第九
條ニ準シ與書割印
ヲ受クヘシ若シ右
日限内與書割印

原告被
係ル何々之訴當又ハ何年月日御裁
判之趣原告人被告何誰不服ヲ以テ
御定規之通地名裁判所ノ上等裁判
所へ控訴可仕旨御届申上候ニ付右
御裁判之執行被停止候旨御達之趣

○ 外國原告人之訴狀 全

○ 裁判停止御請書式

敬承仕候也

住所身分
原告人 氏 名 印

年月日

○控訴御届書式

ヲ受スシテ後日其
証書ヲ以テ訴訟ニ
及ス時ハ貸入書入
ノ証拠ニハ相立サ
ルニ付裁判上糶賣
分配ノ時ハ先取ノ
権利ヲ失ヒ貸入書
入ノキ貸借同様ノ
処分ニ及ブヘキ事
也

原告被告人身分住所氏名へ其ヨリ
私へ係ル何々之訴當又ハ何年月日
御裁判ニ相成候処不服ニ付御定規
之通何々地上等裁判所ノ在 上等御

(明治七年五月二日内務省達乙第三十三号)

本年第六号公布地所
質入書入規則第九條
改正文中戸長ノ奥書
証印ハ戸長又ハ副戸
長実印ヲ為押割印
ハ戸長役場ヲ相用
候義ト可心得此旨
相達候事

裁判へ控訴可仕候此段御届申上候
也

住所身分
被告人 氏 名 印

○身代限揭示書受取之書式

但役場印無之候
ハ、彫刻申付右出

原告人氏名何柵氏名へ係リ何々之
儀訴上候処濟方難行届示談身代限
ニ取極ルニ付本日御揭示書御下ケ
渡ニ相成依テ本日ヨリ何誰表ハ張

来迄ハ夕長実印ヲ
換用可致事

第八章 土地賣
買讓渡規則

(明治十三年十一月廿日)
布告第五十二号

土地賣買讓渡規則
則別紙ノ通相定候条

此旨布告候事

但明治八年六月布
告并同年十月第

置来ル何年月日返納可仕候依テ御
請書如件

年月日 戸長 氏 名 印

○身代限財産糶賣入札拂揭示
書受取書式

住所身代

氏 名

右之者所物糶賣入札拂之御揭示書
御下ケ渡ニ相成正ニ奉受取候也

百五十三号布告廢

止候事

土地賣買讓渡
規則

第一條 凡ソ所有ノ

土地ヲ賣渡シ又ハ
讓渡サント欲スル

者ハ(賣渡讓渡)
證文ニ地券ヲ添ヘ

其地ノ戸長役場ニ

年月日 戸長 氏 名 印

○差上申御請書之式

一何藩下何國何郡何町村番地身分
何誰ハ相係リ何々勸解御願申上候

処明何日午前何時ニ出頭可致旨被
仰渡奉畏候依テ御請書奉差上候

以上

年月日 原告人 氏 名 印

差出シ奥書割印
ヲ受ケ之ヲ買受人
又ハ讓受人へ附典
スヘシ

但一筆ノ土地ヲ
分割シテ奥書
割印ヲ受ケント
欲スル者ハ其分
界及坪数等ヲ
詳記シタル面画

第六章 諸心得之部

○相續人之事

父兄伯叔總テ目上ノ者子弟甥等ノ
目下ノ家ヲ繼承スル片ハ相續人ト
稱シ養子ト稱スベカラズ(相續人ト
定メハ当
主死後五十日ヲ
出ヅベカラズ)

○合家之事

本家分家親戚等ノ内當主病死イタ

ヲ添ヘテ差出ス
ハシ

第二條

戸長役場ニ

於テハ豫メ土地賣
買讓渡奥書割
印帳ヲ備置キ奥
書割印ヲ請フモ
ソアレハ地所賣入
書入奥書割印帳
ヲ見合セ登記ナキ

シ跡子弟幼年並ニ婦女子等ノ砌死
者ノ遺言又ハ父母并ニ重立候親戚
及ビ遺妻子熟談ノ上合家願出候ハ
聞届ニ相成ルベシ

○離縁之事

夫婦ノ際己ムヲ得ザルノ事故アリ
テ其婦離縁ヲ請フト虽氏夫之ヲ許
諾セズ之ガ為メ數年ノ久キヲ經テ

ニ於テハ賣渡讓
渡證文ニ與書

割印ヲナスヘシ
第三條 買受人又ハ

讓受人(賣渡讓
渡)証文ヲ領收スル

片ハ地券(書換裏
書)願書且双方運

印ノ上地券ヲ添ヘ
戸長役場ヲ經テ

終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ推理ヲ

ヲ妨害スルモノ少ナカラス因テ自

今如此事柄アレバ婦ノ父兄弟或ハ

親戚ノ内附添直ニ裁判所へ訴出苦

シカララス

夫家ヲ出デ二年ヲ待チ行衛知レサ

ル者ハ其妻ノ父兄弟或ハ親戚ノ内

附添直ニ離婚ヲ訴フルヲ得ベシ

管轄聽ハ差出ス

第四條 第一條ノ手

續ク以テ其土地所

有權ヲ移轉スル

ヲ得ト異ヒ地租元

地方税ハ地券ニ記

載セル姓名ノ者ヨ

リ之ヲ徵收スヘシ

但地券紛失ノ際

人ノ妻犯ス其他犯罪ニ因テ懲役ニ
処セラレ夫其妻ノ惡ヲ嫌ヒ刑限内
ト魚モ夫並ニ妻ノ父兄弟等熟談ノ上
離別聞届可然事

○戸籍同戸列次ノ順

○戸主 ○高祖父母 ○曾祖父母 ○祖

父母 ○父母 ○妻 ○子 ○婦孫 ○曾孫

玄孫 ○兄 ○弟 ○姉 ○妹 ○大伯叔父

下附願出ルモ亦
地券ニ記載セル
姓名ノ者タルハ

第五條 死亡者失踪
者ノ家督相続若
クハ遺産相続及
ヒ離縁戸主ノ家
督相続ニ由リ土地
ヲ讓受ケタル者ハ

母○伯叔父母○甥○姪○從弟○從

弟○又從弟○兄弟ノ妻○姉妹ノ

夫○大伯父ノ妻○大伯母ノ夫○伯

叔父ノ妻○伯叔母夫從弟以下

○五等親

一等親 父母○養父母○夫○子○

養子

二等親 祖父母○嫡母○繼母○伯

(親族ナキモノハ近
隣ノ戸主ト連印ノ

上戸長役場ヲ經テ

地券(書換裏書)

願書ヲ管轄廳ハ

差出スヘシ若シ家

督相続又ハ遺産

相続ノ日ヨリ六箇

月以内ニ戸長役場

迄之ヲ差出サ、ル

三等親

叔○父姑○兄弟○姉○妹
○夫ノ父母○妻○姪○孫
子ノ婦

曾祖父母○伯叔ノ婦○夫

ノ姪○從父兄弟姉妹○異

父兄弟姉妹○孫○外孫○

女壻

○弟子奉公人年限ノ事

者ハ證印稅五倍ノ
科料ニ処ス

但本條期限内ニ

地券(書換重書)

願書ヲ差出ス能

ハナル事由アリ

テ之ヲ届出ル者

ハ此限ニ在ラス

第九章 土地分

農工商ノ諸業習熟ノ為ノ弟子奉公

ニ至リ候ハ勝手ニ候得共年限ハ満

七年ニスグベカラズ

但シ双方相對示談ヲ以テ延期苦

シカラズ

○請願規則

(太政官布告第五十八号)
(明治十五年十二月十二日)

請願規則左ノ通制定ス

分割取扱手續

第一條 賣買讓渡

等ノ為メ一筆ノ土

地ヲ分割シテ與書

割印ヲ受ケ地券書

換ヲ請ハント欲ス

ルモノハ境界ヲ明

瞭ニシテ其反別ヲ

正シ地位ノ優劣

ニヨリ全筆ノ地價

第一條 人民各自ノ利害ニ關シ行

政上ノ処分ヲ請願セントスル者

ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條 郡區長及戶長職務内ノ事

件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡

區長戶長ノ指令ニ服セザル者ハ

府知事縣令ニ請願シ府知事縣令

ノ指令ニ服セザル者ハ主務卿ニ

ヲ分配シ其書面ノ
戸長役場ニ差出ス
ヘシ

第二條 戸長ハ實地
ヲ檢シ不都合ナキ
時ハ與書割印ヲ
ナシ若シ反別實
價配分上不適當
ノモノアリト認ル
場合ニ於テハ其旨

請願シ主務卿ノ指令ニ服セザル
者ハ太政官ニ請願スルコトヲ得
府知事縣令警視總監職務内ノ
事件ハ府知事縣令警視總監
ニ請願スヘシ府知事縣令警視
總監ノ指令ニ服セザル者ハ主務
卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セ
ザル者ハ太政官ニ請願スルコト

ヲ説諭シ願人承服
セサル時ハ其意
見ヲ付シ郡區役所
ヲ經テ管轄廳
具申スヘシ

第三條 該廳ニ於テ
前條ノ具申ヲ受
ル時ハ更ニ實地
審査シ分界ヲ檢シ
坪數地位ニ適スル

ヲ得
各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請
願スベシ其指令ニ服セザル者ハ
太政官ニ請願スルコトヲ得
第三條 凡ソ請願スル者ハ書面ヲ
以テスベシ口陳スルコトヲ許サ
ス官署ノ求メニ應シテ開陳スル
ハ此限ニ在ラス

地價ヲ定メ其旨本
人ニ申達シ與書
割印ヲ受クルノ手
続ヲナサシムヘシ
但賣買讓渡
ニアラスシテ自
己ノ都合ニヨリ
一筆ノ土地ヲ分
割スルモ前條々
ノ例ニヨルヘシ

第四條 請願書ハ請願人自ラ署名
捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請
願スル者ヲ除ク外住所戸長ノ與
印ヲ受クベシ
其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人
自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ
其總代又ハ請願發起人アルトキ
ハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ與書

第十章 利息

制限法

(明治十年九月十二日
布告第六十六号)

利息制限法左ノ通相

定候条此旨布告候事

第一條 凡ソ金銀貸

借上ノ利息ヲ分テ

契約上ノ利息ト法

律上ノ利息トス

ヲ受クルハ前ノ例ニ同シ

第五條 府縣郡區總代又ハ結社總

代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得

ス

但成法ニ制定セラレタル會社

ハ此限ニ在ラス

第六條 請願書ヲ上呈スルニ代人

ヲ以テスルコトヲ許サス數人連

第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十(三割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ十二

名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ヲ委託スヘシ

第七條 請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

第八條 上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ

(一割二分)以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシ

第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定メサル片裁

第九條 請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非ザルトキハ直チニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條 太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ処分セシムヘシ

第十一條 太政官ノ裁令ヲ經タル

判所ヨリ言渡所

ノ者ニシテ元金ノ

多少ニ拘ラス百分

ノ六(六分)トス

第四條 第三條ニ依

リ定限利息ノ外總

テ人民相互ノ契約

ヲ以テ礼金棒利等

ノ名目ヲ用ル者ア

ルハ總テ裁判上無

者ハ更ニ請願スルコトヲ得ス又

裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第十二條 請願ヲ名トシテ行政処

分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 凡ソ事ノ建白ニ屬スヘ

キ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ

以テ請願スト雖モ受理セス

第十四條 行政処分ノ既ニ五年ヲ

効ノ者トス

第五條 返還期限ヲ

違フルハ負債主

ヨリ債主ニ對シ若

干ノ償金罰金違

約金科料等ヲ差出

スヘキヲ約定ス

ルヲアルハ概シテ

損害ノ補償ト看做

シ裁判官ニ於テ談

經タル者ハ請願ヲ受理セズ

第十五條 請願人第二條ノ順序ヲ

經ス及第三條第四條第五條第六

條第八條第十一條ノ規程ニ循ハ

サル者ハ受理セス

第十六條 請願書ニ侮辱誹毀ノ語

ヲ用ヒ及第二條ニ示ス所ノ官署

ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セ

債主ノ事竇受ケ
タル損害ノ補償ニ
不當ナリト思量ス
ル片ハ之レニ相当
ノ減少ヲ為スヲ
得

第十一章 証券規則

(明治七年七月廿九日
布告第八十一号)

第十七條 條規ニ違ヒ受理セラレ
サルノ請願ヲ以テ強テ受理ヲ乞
フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕
禁錮ニ処ス其連名請願スル者ハ
情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均
ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上
二年以下ノ輕禁錮ニ処ス若シ請

明治六年(二月)第五
十六号以下追々及布
告候証券印紙規則總
テ相廢シ更ニ別冊之
通相定メ本年九月一
日ヨリ施行候条此
旨布告候事
但帳簿罰則ハ未
ル明治八年一月一
日ヨリ施行候義

願人ノ外教唆者アルトキハ發起
人ト同ク罪ヲ論ス其嘯聚ニ涉ル
者ハ刑法ニ依テ処分ス
第十八條 請願人官吏ニ對シ抗論
シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一
年以下ノ輕禁錮ニ処ス
其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ処
分ス

ト可相心得事

別冊

証券印税規則

第一則 綱領

第一條 凡ソ人民財

産ノ受授並ニ交際

上相用候証券書帳

簿類ハ都テ此規則

ノ通証券(○印紙

○界紙)ヲ相用ス

第十九條 請願書ハ新聞紙其他ノ

文書ヲ以テ公行スルコトヲ許サ

ス犯ス者ハ罪前條第一項ニ同シ

第二十條 請願ニ由リ人ヲ誣告ス

ル者ハ刑法ニ依テ処分ス

右奉教旨布告候事

○富籤賣買牙保及購買者

処分方

キ事

第二條 總テ規則ノ

通証券(○印紙○界

紙)ヲ用ヒサル者ハ

後日如何体ノ故障

差起出訴ニ及ビ候

共其書類ハ一切取

揚ケ裁判不相成候

事

第三條 証券(○印

(太政官布告第廿五号
明治十五年五月廿四日)

明治元年十二月廿三日ノ布告ニ原ツ

キ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ為シ及富

籤ヲ購買シタル者処分方左ノ通制

定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ

幫助ヲ為シタル者ハ一月以上六

月以下ノ重禁錮ニ処シ五回以上

紙○界紙ハ買未
 差支無之様各府
 縣管下適宜ノ場
 所へ賣捌所相設
 置候条下條ニ掲
 載セル定價ヲ以
 テ買取ヘキ事
 第四条 賣捌所ハ
 証券印紙賣捌
 所ト大書シ官ノ

五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二條 凡富籤ヲ購賣シタル者ハ
 其價ヒヲ拂ヒタルト未ダ拂ハザ
 ルトヲ問ハス二十日以上四月以
 下ノ重禁錮ニ処シ四圓以上四十
 圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名
 ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨ
 リ譲リ受ケタル者亦同シ

ノ事
 燒印アル番板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止
 第五條 印紙ノ種類定價左ノ通候事

淡黑色印紙	定價一錢
薄赭色全	全五錢
青色全	全十錢
黄色全	全二十五錢
橙黄色全	全五十錢
紅色全	全壹圓
深紫色全	全五圓

深紅色全

全二十円

第六條 證券界紙ノ定價左ノ通候事

大判界紙

定價七厘

中判全

全五厘

小判全

全三厘

右ノ界紙ハ大中小判ノ三種アリト申氏其證書ノ文義長短ニ因リ便宜ニ任セ何種ヲ相用アルモ適宜タルヘキ事

第二則 諸証書

第一條 諸証書ヲ分テ三類トス

○第一類 諸証書

一 賣品並職業ニ管スル金銭受取書

右ノ受取書ハ金高十円以上總テ一錢ノ印税十円未満ハ印紙

界紙ヲ用フルニ及ハス

一 預金〇證文〇手形

一 耕地小作證文

一 遺金證文

右ノ證書類ハ金高十円以上ハ總テ一錢ノ印税十円未満ハ

界紙ヲ用フヘシ

一 貨物〇預り書〇小札

右ノ証書ハ金高十円以上ハ一錢ノ印税十円未満ハ印紙界

紙ヲ用ルニ及ハス

一 諸會社株手形

一 荷物送り狀

一 荷物預り證書

一 (○) 地所(○) 建家(○) 讓典證書

一 物品讓典證書

一 公債證書類讓典證書

一 跡式讓狀

右ノ證書類ハ金高ニ拘ハラス總テ一錢ノ印稅

○明治八年百二十六号布告ヲ以テ左ノ通追加ス

一 預り米(○) 証文(○) 手形

一 預り雜穀(○) 証文(○) 手形

右証書ハ(米高五石雜石高十石)以上ハ總テ一錢ノ印稅(米高五石雜穀高十石)未滿ハ界紙ヲ用ユヘシ

○ 第一類諸證書

一 借用金証文

一 預り金(○) 証文(○) 手形但使用ヲ為サルノ明文無之ハ

一 地所並建家賣渡証文

一 地所並建家(○) 質入(○) 書入(○) 証文

一 公債證書類賣買証文

○明治七年百三十六号布告ヲ以テ左ノ通追加ス
一 諸品賣仕切書

○明治十二年三十一号布告ヲ以テ左ノ但書追加ス
但シ買仕切トハ荷主ヨリ輸送シ又ハ輸送セントスル物品ヲ問
屋仲買又ハ其他ニ於テ仕切り其價等ヲ荷主ニ證明報告ス
ル書類ヲ云ヒ賣仕切トハ荷主ヨリ他ニ物品又ハ輸送スル
ニ方テ其物賣却ノ價額ヲ荷受主ニ向テ證明報告スル
書類ヲ云フ

右ノ仕切書ハ
書面金高十四未満ハ 界紙ニ及ハス

同断金高十四以上二十四未満ハ	印税	一錢
同断金高二十四以上三十四未満ハ	同	二錢
同断金高三十四以上四十四未満ハ	同	三錢
同断金高四十四以上五十四未満ハ	同	四錢

右以上幾許ノ高ニ至ルモ總テ之ニ準ジ印税増加致スヘシ

- 一 荷為替手形
- 一 諸請負証文
- 一 金錢約定証文
- 一 金錢約定為取換証文
- 一 米穀並諸品賣買約定証文

一 米借用証文
 一 雜穀借用証文
 一 賣買用諸品 (代價拾圓以上) 借用証文
 一 借地証文
 一 借家証文
 一 金十圓以上記載雇人請狀
 一 諸賣買証金預り手形
 一 諸數金証文
 ○明治八年百二十六号布告ヲ以テ左ノ通り追加ス
 一 預り米 (証文○手形) 但使用ヲ為サル明文無之分

一 預り雜穀 (証文○手形) 但使用ヲ為サル明文無之分
 右ノ証書類ハ

書面 金高十圓未満ハ
 米高五石未満ハ
 雜穀高十石未満ハ
 界紙ヲ用フヘシ

同断 金高十圓以上二拾圓未満ハ
 米高五石以上十石未満ハ
 雜穀高十石以上二十石未満ハ
 印税一錢

同断 金高二十圓以上三十圓未満ハ
 米高十石以上十五石未満ハ
 雜穀高二十石以上三十石未満ハ
 金 二錢

同断 金高三十圓以上四十圓未満ハ
 米高十五石以上二十石未満ハ
 雜穀高三十石以上四十石未満ハ
 金 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

○第三類諸証書

一 諸酒切手

右ノ切手ハ

升目一升未滿ハ

界紙ニ及ハス

同一升以上一斗未滿ハ

印稅壹錢

同一斗以上二斗未滿ハ

全 二錢

同二斗以上三斗未滿ハ

全 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタス可シ

○明治七年百三十六号布告ヲ以テ左ノ通り追加ス

一 為換手形

一 荷為換手形

右ノ手形ハ

書面金高五十円未滿ハ

界紙ニ及ハス

同断金高五十円以上百円未滿ハ

印稅一錢

同断金高百円以上百五十円未滿ハ

全 二錢

同断金高百五十円以上二百円未滿ハ

全 三錢

同断金高二百円以上二百五十円未滿ハ

全 四錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一 食類切手

右ノ切手ハ

代金高二十五銭未満ハ

界紙ニ及ハス

同二十五銭以上二四五十銭未満ハ

印税一銭

同二四五十銭以上五四未満ハ

全 二銭

同五四以上十円未満ハ

全 三銭

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ 總テ之ニ準シ 印税増加致スヘシ

一米油醬油其外諸品買切手

右ノ切手ハ

代金高二十五銭未満ハ

界紙ニ及ハス

同二十五銭以上五四未満ハ

印税一銭

同五四以上十円未満ハ

同 二銭

同十円以上二十四銭未満ハ

同 三銭

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ 總テ之ニ準シ 印税増加致スヘシ

一 荷物請取書

右ノ受取証ハ送狀附添ハサル分ハ界紙ニ及ハス送狀附添ノ

分ハ界紙ヲ用フル歟又ハ印紙貼用ノ荷物判取帳ニ記スヘシ

一金高記載無之(〇約定証書。雇入請狀)類

右ノ証書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ

〇明治十二年三十一号布告ヲ以テ左ノ二項追加ス

一 銀行當座預リ金小切手

右ノ小切手ハ金高ニ係ハラズ總テ壹錢ノ印紙ヲ徵收シ大
藏省ニ於テ税印ヲ押捺スルモノトス

第二條 証書ハ總テ

証書渡主ニテ印
紙貼用ノ上必ス實

印ヲ以テ其印紙
ノ全面滅却セサル

様第一号圖ノ通
調印致スヘキ事

第三條 院省使府

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯

シタル者ハ同條ニ定メタル刑期

金額ノ二倍ニ処ス但初犯ニ科シ

タル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ関スル犯罪ヲ告發

シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ

縣ノ官印或ハ諸

官吏ノ公務ニ依

リ調印セル受取

書証書類ハ印

紙界紙ヲ用フルニ

及ハサル事

第四條 租税並賦

金及ヒ區入費取

立ノ節區戸長ヨ

リ相渡受取書

半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ関スル罪ヲ犯シ事

未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首

シタル者ハ其罪ヲ免ス

第六條 富籤ニ関スル犯罪ニ因テ

得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖

モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

ハ界紙ヲモ用フル
ニ及ハサル事

第五條 官祿家

祿賞典救助受
取書又ハ裁判
請書及ヒ訴訟
濟口証文等部
テ印紙界紙ヲ用
フルニ及ハサル事

第三則 諸帳簿

右奉勅旨布告候事

遺失物取扱之心得

第一條

凡ソ遺失物 稱スルハ
自ラ其遺失スルニ心付カズ故ニ
其所在ノ何処ナルヤヲ覺知セザ
ルヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ
臨テ物主其場所ニ就テ其所持

第一條 諸帳簿類分テ三類トス

○第一類 諸帳簿

- 一 金銭判取帳
- 一 貨物通帳
- 一 金銭當坐預リ通帳

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百円未満ハ

同断金高百円以上二百円未満ハ

同断金高二百円以上三百円未満ハ

同断金高三百円以上四百円未満ハ

印紙貼用ニ及ブ

印紙 一錢

全 二錢

全 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税增加致スヘシ

○第二類諸帳簿

- 一 貨物臺帳
- 一 金錢一時(貸・借)通帳
- 一 諸品損料帳
- 一 商賣品當坐(貸・借)通帳
- 一 金錢預リ通帳但使用ヲ為サルノ明文無之分

右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未満ハ

同断金高百圓以上二百圓未満ハ

印紙貼用ニ及ハス
印税 五錢

同断金高二百圓以上三百圓未満ハ 全 拾錢

同断金高三百圓以上四百圓未満ハ 全 拾五錢

右以下幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税增加致スヘシ

○第三類諸帳簿

- 一 荷物判取帳
- 一 諸品判取帳

右ノ帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ラス一ケ年ニ付印税貳拾錢

第二條 (第一類)

第三類帳簿ハ

印紙貼用ノ儀ハ

ノ主タルヲ証明ニスル片ハ速ニ
之ヲ返シ遣シテ遺失物ヲ以テ

一ヶ年以上附込へ
キ見積金高ヲ以
第三号書式ノ通
帳簿ノ初丁へ自
身ニ相記シ其金
高ニ應シタル印紙
貼用ノ上必ス實印
ヲ以調印致スヘキ
事

但帳簿初丁へ

彼此ノ論ヲ為スコト得ズ

第二條ニ 凡ソ遺失物ヲ得レバ五
日內ニ其主ニ返スベシ若シ其主
分明ナラザレバ之ヲ官ニ差出ス
ベシ官ニテハ之ヲ榜示シテ一年內
ニ其主ナキニ於テハ之ヲ得者ニ給
スルナリ

第三條 凡ソ遺失者ハ其遺失シ

記シタル附込見
積金高相満候迄
ハ何ヶ年相用
候トモ苦シカラ
サル事

第三條 第三類ノ
帳簿へ印紙貼用
ノ儀ハ其帳簿可
相用年限ヲ見積
リ第四号書式之

タル物品ノ負數模樣並ニ日時
又心覺ヘノアル場所等細密ニ記
載シ速ニ官ニ届ケ出スベシ

但シ得者ヨリ返シ与ヘテ得ル
片モ亦更ニ其旨ヲ届出ベキナリ
第四條ニ 凡ソ遺失ノ物ヲ得ル片ハ
之ヲ其所持ノ主ニ返スト由其費
用ヲ償ハシムル事ヲ得ル也且ツ

通帳簿ノ初下へ
自身ニ相記シ其
年限ニ應シタル印
紙貼用ノ上必ス實
印ヲ以調印致スハ
キ事

但帳簿ノ初下
へ記シタル年限
相満候迄何箇
數附込候トモ苦

得者ニ報勞ノ為メ其物價ノ百分

ノ五ヨリ以上百分ノ二十迄ノ金

目ヲ給与スベシ若其物主ト得者

ト其價ノ當分ヲ爭フキハ官ニテ

之ヲ評價人ニ托シテ其當分ノ價

ヲ定ム

第五條ニ 凡ソ遺失物ヲ得ルニ盜賊

ニ係ルモノハ直ニ官廳ニ訴へ出

シカラサル事

第四條 一旦印紙貼

用ノ(○)第一類○第

二類)帳簿附込見

積金高相満候狀

又ハ第三類帳簿

年限相満餘白紙

數有リテ再用セン

ト欲スル者其帳

簿ニ應シ○第三

ツベシ官ニテ之ヲ其所持主ニ返

シテ得者ニハ則チ其費用ヲ償ハ

シムベシ

第六條ニ 凡ソ官私ノ地内ニ於テ

埋藏アリシ物ヲ掘出シタル者ハ

其事件ヲ官ニ送り地主ト中分ス

ルヲ法トス但シ其主ノ分明ニ知

レタル者及ヒ盜賊ニ係ルモノハ

号。第四号)書式

ノ通改テ書記シ印

紙貼用致スヘキ事

第五條 第二類ノ証

書ヲ若シ便利ヲ為

帳簿ニ相綴リ書

載候儀不旨候得

共其帳簿ハ其附

込ノ歳毎ニ第ニ

則第一条ノ通印紙

此分ニアラザルナリト可心得

第七條ニ 凡ソ遺失ノ物ヲ得ルニ

若シ其物久シク保チ難クシテ其

主分明ナラザル片ハ速ニ官ニ之

ヲ送ルベシ官ニテ之ヲ公賣シ其

代價ノ金ヲ領置シ榜示シテ之

ヲ処分スルノ前ノ第二條ノ如シ

第八條ニ 凡ソ家畜ノ他所ニ逸走ス

貼用致スヘキ事

第六條 印紙貼用ノ

諸帳簿ハ其掛リ

官員巡回調査ヲ

遂ゲ候儀モ可有之

尤其郎ハ巡回日限

前以可相違候条

印紙貼用ノ帳簿

ハ無遺漏調査

ヲ受クヘキ事

ルモノハ之ヲ遺失物ト称スルヲ

得ズト雖モ其主ニ於テハ之ヲ官

ニ報シ又得者ニ其費用及ビ報勞

金ト謝典スルノ第三第四條ニ同

シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スル時

律ニ照準シテ処分スベシ

第九條ニ 凡ソ逸走スル玄田類ヲ得

タル者ハ其主分明ナラザルモノ

第七條 (第一類)

第二類 附込見積
金高相満候款又
ハ第三類帳簿ノ
期限相満候即其
帳本ニ第五号書式
ノ通興書ノ上調
印致シ置前条官
員巡回ノ即差出
換印ヲ受クヘキ事

ハ之ヲ官ニ差出スベシ若シ八日ノ

限リニ其主知レザレバ官ニテ之
ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償
ヒ仍ホ代金ノ餘分アレハ之ヲ官
ニ領置シ榜示シテ之ヲ処分スル
第二條ノ如シ
第十條ニ 凡ソ遺失物及ヒ逸走ス
ル畜類ノ官ニ係リタルモノハ官ヨ

第四則 賞罰則

第一條 証券界紙

相用ヘキ証券類
ニ証券界紙ヲ用
ヒサル者ハ脱税高
(界紙定價ニ二種
平均五厘ノ二拾倍
(則拾錢)其証書
ノ受取書ノ受取
タル者ハ脱税高

リ其費用ト報勞金ヲ其得者ニ給
スル一私物ニ同シ

第十一條ニ 凡ソ警察官吏タル者ハ

所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得
レハ速ニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ
返シ其主ナケレハ之ヲ官ニ納ムル
ナリ

第十二條ニ 凡ソ一切應禁ノ物ヲ得

ノ拾倍(則拾錢) 過料タルヘキ事

第二條 (第一類)

第二類 第三類

ノ証券印紙ヲ貼用

セサル者ハ脱税

高ノニ拾倍其証

書ヲ受取タル者

ハ脱税高ノ拾倍

過料タルヘキ事

レバ遺失及ヒ埋藏ヲ論セズ皆之ヲ 官ニ没スルナリ

第十三條ニ 凡ソ公私債証書地券

諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論

スルヲ得ズト 虽モ其主ハ得者ニ其

費用ヲ償フベシ

第十四條ニ 凡ソ遺失物及ヒ逸走セ

シ畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得

第三條 (第一類)

第二類ノ諸帳簿

ハ証券印紙ヲ貼用

セサル者ハ脱税高

ノ貳拾倍過料タ

ルヘキ事

第四條 (第一類)

二類(証券印紙貼

用ノ帳簿見積金

高附込相済餘白

テ官私ニ全ク送り返サズ又ハ其

主タル一分明ナルニ強テ之ヲカハ

サル者ハ並ニ律ニ照シテ処分アルベ

キナリ

○地所名称區分

第一類 官有地

皇宮地 皇居 離宮 總テ民有ニアラ

ザル 神地等

ノ紙數之レアルト
テ第三則第四則ヲ
犯シ更ニ證券印
紙ヲ貼用セス猶附
込候者ハ脱税高
ノ拾倍過料タルヘ
キ事

第五條 第三類ノ諸
帳簿ハ証券印紙
貼用セサル者ハ脱

右ハ地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ區
入費ヲ賦セズ

第二類 皇族賜御官用地

右ハ地券ヲ發シ地租ヲ課セス又區
費ヲ賦セズ

第三類 山岳丘陵林藪原野海河湖

沼池澤溝渠道路田畑屋敷等鐵道
線敷地電信架線柱敷地燈明臺敷

税高(警)ハ無印
紙ニ一ケ年未滿相
用フル者ハ則ニ拾

錢ノ脱税ニケ年未
滿相用フル者ハ則
四拾錢ノ脱税當
ル類ナリ以上之ニ
準シ一ケ年以内貳
拾錢ツ、ノ割合ヲ
モツテ之レヲ算ス

地名區田跡公園地人民所有ノ權

利ヲ失ヒシ地

民有地ニアラザル堂宇敷地及ヒ

墳墓行刑場及ヒ揭示場等ノ敷地

右ハ地券ヲ發セズ地租ヲ課セス區
入費ヲ賦セズ

但シ人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸

渡ス片ハ其間借地料及ヒ區入費

ノ六倍過料タルヘ

キ事

第六條 第三類証券

印紙貼用ノ帳簿

期限相満餘白ノ

紙數之レアルトテ

第三則 第四条ヲ犯

シ更ニ証券印紙ヲ

貼用セス猶附シ候

者ハ脱税高(警告

ヲ賦セズ

第四種 寺院大中小学校説教場

院舎員院

右ハ地券ヲ發セス地租ヲ課セズ區

入費ヲ賦セズ

第五類 民有地

人民各自所有ノ耕地宅地山林社

寺等

書同断ノ四倍過料
タルヘキ事

第七條 諸証券帳

簿ニ証券印紙ヲ

不足ニ貼用セシモ

ノハ其減税高ノ

拾倍其証券受取

タル者ハ減税高

五倍ノ過料タルヘ

キ事

右ハ地券ヲ發シ地租ヲ課シ區入費
ヲ賦ス

但シ潰地開墾等ノ如キ大ニ其ノ

土地ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ得

テ免租ヲ得

第六類 人民教人又ハ一村所有ノ

学校病院郷倉牧場抹場社寺等

右ハ地券ヲ發シ地租ヲ課シ區入費

第八條 規則ニ從テ

貼用セシ諸証書

帳簿ノ証券印紙

ニ調印セサル者ハ

二十四以下ノ過料

タルヘキ事

但其調印セサル

証書ヲ受取タ

ル者ハ渡主ニ科

スル半高ノ科料

ヲ賦ス

第七類 官所有地ニアラザル墳墓

右ハ地券ヲ發シ地租ヲ課シ區入費

ヲ賦セザルヲ法トス

○為替手形約束手形條例

(明治十五年十二月十一日)

第五十七号布告
為替手形約束手形條例別冊ノ通制

定ス

タルヘキ事

第九條 証券印紙ヲ

貼用セサル歟又ハ

印紙不足ナル歟或

ハ貼用ノ印紙ニ調

印ヒサル歟又ハ界

紙可相用諸証書

ニテ界紙ヲ用ヒサ

ル証書ハ証人ニ相

立又ハ與書等致

右奉敕旨布告候事

第一章 為替手形

第一節 為替手形性質及ヒ法

式

第一條 為替手形ハ振出人ヨリ支拂

人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ

其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシ

ムル證券ヲ謂フ

シ候者ハ貳十五円
以下ノ過料タルハ
キ事

第十條 官許賣捌
所ノ外ニ於テ第一
則第四條ニ背キ証
券(○印紙○界紙)
ヲ賣捌致シ候者
ハ其品取揚ケ既
ニ賣捌タル(○印

第二條 為替手形ニハ左ノ件ヲ記
載シ振出人記名調印ス可シ

- 一 金額
- 二 振出ノ年月日及ビ場所
- 三 支拂ノ期限及ビ場所
- 四 支拂入ノ氏名
- 五 受取人ノ氏名
- 六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタ

紙(○界紙)代ハ百
倍其情ヲ知テ之
ヲ買フ者ハ其品
取上ケ(○印紙○界
紙)代ハ五十倍過
料タル(キ事
第十一條 證券印
紙貼用致スヘクシ
テ全ク貼用無之
諸帳簿ニ調印イ

ル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 為替手形ハ一ノ為替ニ付
同文ノ手形ニ通又ハ三ニ通ヲ振出
スコトヲ得此場合ニ於テハ各通ニ
番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ
為シタル時ハ他ノ各通ハ無効タ
ル可キコトヲ記載ス可シ

第四條 為替手形ノ金額ハ五圓以

タシ候者ハ其人
毎ニ帳簿主ヨリ
取立候過料高
百分ノ一ツ、各
過料タルヘキ事

第十二條 一旦相用
ヒ調印セシ證券
印紙ヲ再用セン
トス之ヲ剥取り
調印ヲ洗滅スル

上ニ限ル者トス

第二節 支拂期限

第五條 為替手形ノ支拂期限ハ左

ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示

者或ハ洗滅シタル
者ト知テ之ヲ再用
スル者又ハ之ヲ賣
買スル者ハ六拾回

以下ノ過料タルヘ
キ事

第十三條 證券
印紙○界紙○質
造スル者又ハ雁貝
造セシ品ト知テ是

ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者
トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定

メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一

覽見濟ノ日ヨリ其日数ヲ起算シ手

形ニ定ムタル期日ニ支拂フ可キ

者トス

ヲ賣買スル者ハ
都テ九拾回以下ノ
過料タルヘキ事

第十四條 前數條ニ
掲タル処ノ犯人
ヲ見届ケ訴出ル者
アルハハ事實竇取
糾ノ上相違ナキニ
於テハ其當員トシ
テ其過料金ノ

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後

定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ

三ヶ月以内ニ之ヲ口示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日

附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一

覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト為ス

第三節 為替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ

半高ヲ下サルヘキ
事

(明治八年五月十一号ノ布告
ヲ以テ左ノ通り增加ス)

第十五條 証券印紙

貼用スヘキヲ界紙

ニ認メ渡ス者ハ減

税高ノ拾倍其受

取タル者ハ減税

高五倍ノ過料タル
ヘキ事

為替資金ヲ交付スルノ義務アル者

トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ

貸方計算アル時ハ之ヲ以テ為替資

金ニ供用スルヲ得

第四節 裏書

第十三條 為替手形ハ裏書ヲ以テ

其所有權ヲ移轉スルヲ得

第五節

第一條 諸証書ニ

外國貨幣ヲ以テ
記載セル分ハ其節

相場ヲ以テ内國

通貨ニ計算其

高ニ應シ印紙貼用

致スヘキ事

第二條 公債証書

類ハ其証書目面

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓

受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ

賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記

シ調印ス可シ

第十五條 裏書人ハ振出人及ビ自

己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後

ノ裏書人及ビ手形所持人ニ對シ

相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者

トス

第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ

時ハ補箋ヲ為シ裏書ヲ為スヲ

得

第五節 保證

第十七條 振出人裏書人及ビ支拂

人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保

證セシムルヲ得

ノ金高ニ拘ハラズ
賣買ノ正金高ヲ
以テ計算シ其高
ニ應シ印紙貼用
致スヘキ事

第三條 官ノ金穀

諸拜借証文儀

衆庶一般ノ災厄ヨ

リ起レル救助ニ関

スル介ハ○印紙○

界紙)ヲ用フルニ及
ハサレ其餘ノ諸
拜借ハ總テ借用
金穀証文規則
ノ通リクルヘキ事
第四條 印紙貼用
ル諸證書且事故
アリテ書改候節
ハ新証書へ更ニ
印紙貼用致スヘキ

保證人ハ其保證ノ旨ヲ手形又ハ
別紙ニ記載ス可シ
第十八條 振出人裏書人ノ保證人
ハ本人義務ヲ欠クル場合ニ於テ
本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶
シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス
第十九條 保證人支拂ヲ為シタル
時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル

事
第五條 凡ソ諸證
書帳簿ニ誤リテ
過刺ノ印紙ヲ貼
用セル者ハ其証
ニ於テ妨ケナキ事
第六條 諸証書ヲ
差矣シ又ハ諸切
手類現品引替
節即戻シ主ニテ嘗

者トス
第六節 引受
第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後
定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ
其引受ヲ求ムルヲ得
第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ
引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日
ヲ手形ニ記載シ記名調印スヘシ

新撰書式文持
四百四十一

ニ調印アル印紙面
ヲ塗消シ或ハ引キ
裂キ相戻スヘキ事

第七條 各所問屋

ヲ經テ送致スル荷
物送狀ヲ途中(宿
湊問屋)ニ於テ其
低繼送候節ノ漆
狀ハ印紙貼用ニ
及ハサレ右荷物

第二十二條

支拂人手形ノ支拂ヲ
引受ケタル時ハ振出人
身代限ノ
処分ヲ受ケタル場合ト
消ヲ為ス一ヲ得ス

第二十三條

支拂人手形ノ支拂ヲ
引受ケタル時ハ所持人ハ引受
拒ミ証書ヲ受ク可シ

第二十四條

所持人拒ミ証書ヲ

ヲ引分ケ各別差
送候節ノ新規送
狀ハ規則ノ通印紙
貼用致スヘキ事

第八條 為取換約

定書ノ類ハ双方ト
モ印紙貼用致ス
ヘキ事

第九條 官院省便

府縣廳ニ於テ銀

府縣廳ニ於テ銀

受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵

便其他證據トナル可キ手續ヲ以

テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ

為替金額及ヒ諸費用ニ相當スル

抵當又ハ保證人ヲ以テ保證ヲ立

テシムル一ヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人

又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所

行又ハ為楨方等
ハ資金其他官金
相預候節預リ金
証文並ニ預リ金
通帳ハ印紙界紙
ヲ用フルニ及ハサ
ル事

第十條 削除
第十一條 印税規則
ニ相觸候証書並

持人同一ノ処置ヲ為スヲ得
第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ
内既ニ相當ノ保證ヲ立タル者ア
ル時ハ其以後ノ裏書人ハ保證ヲ
立ルノ義務ヲ免ル、者トス

第七節 支拂
第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記
シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂フ

ニ帳簿ヲ授受致候

儀相頭レ規則ノ通
過料金差出候後ニ
至ツテモ其証書帳
簿ハ取揚ハ裁判不
相成事

第十二條 前條ニ揭

クル証書ヲ以テ公
裁ヲ仰ガント欲ス
ル節ハ受取主ニ於

可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期
限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若
シ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休
業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス
可シ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ
請取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載

テ相當ノ印紙ヲ貼
用シ調印済ノ上ハ
取揚ケ裁判可致事

第十三條 第十一條

ニ掲クル証書ノ内
界紙可相用処他紙
ヲ相用候証書ヲ以
テ公裁ヲ仰ガント
欲スル節ハ受取主
ニ於テ其証書ヘ一

シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支

拂人ニ交付ス可シ

第二十九條 一人為替ニ付キ手形

數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ
記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ為ス
可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形

ノ支拂ヲ為サル時ハ手形所持

錢印紙ヲ貼用シ調

印済ノ上ハ取上ケ
裁判可致事

第十四條 第十一條

ニ掲クル帳簿ヲ
以テ公裁ヲ仰カン
ト欲スル節ハ帳簿
主ニ於テ相當印紙
ヲ貼用シ調印済
上ハ取揚裁判可致

人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケ

タル者ハ其旨ヲ電信書留郵便
其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振
出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支拂人手形ノ引受又

ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ

事

第十五條 甲乙等ノ号ヲ各帳ヘ記付シ同金高ヲ記載シ彼我ニ各一帳ツハ所持シテ相互ニ交換致ス通帳ノ類ニ冊トモ後証トナルヘキモノハ甲乙トモ印紙貼用致スヘキ

為シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト為ス
第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作ルトテ肯ゼズ又ハ其住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戸長役場ノ証印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ

事

第十六條 旅行先ニテ相用候帳簿ハ其管轄地ニ官貞巡回ノ節調査受候氏便宜ニ任スヘキ事
第十七條 最初帳簿附込見積金高百圓以内ト見込印紙貼

第三十四條 支拂人身代限ノ処分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト虫モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受ケクルトテ得
第九節 償還ノ要求
第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏書人ノ

用セス官員ノ調査ヲ受サルモノ漸ク附込相高ニ誤テ百圓以上ニ及ヒ候者ハ附込金高二百圓以内ニテ他ヨリ発覚セサル以前ニ印紙貼用調印ノ上其官轄廳ニ差出調査ヲ受候ニ

中一人若クハ數人ニ對シ為替形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書並ニ通知ノ費用ノ償還ヲ要求スルヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ為シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若ク

於テハ犯則ノ限ニ無之事

第十八條 印紙多數

用フル節即証書面狹隘ニテ貼用シカタクキ分ハ証書裏面ヘ貼用致シ第ニ号圖ノ通調印イタスヘキ事

(明治七年百三十七号) 布告ニテ左ノ項增加

ハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルヲ得

第三十七條 振出人ハ為替資金ヲ

支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヲ得ス

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ

拒ミ證書ヲ附シタル為替手形及

一委任状ノ儀ハ総
テ界紙ヲ用フ可
キ事

第一号圖

証書渡主ノ實印

証

一金何回何拾錢

一金何拾回

實印

一金何拾何回何十錢

ヒ證據ヲ添ヘタル計算書ト引換
ヘニ非レハ償還ヲ為スニ及ハス

第三十九條

第九條ノ呈示期限第

二十七條ノ支拂請求期限及第

三十五條第三十六條ノ要求期限

ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ為替

資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要

求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ

右ノ通、……、
年号月日何誰印
何、誰殿

証書渡主ノ實印

証

實印

印紙

一金何百何拾回

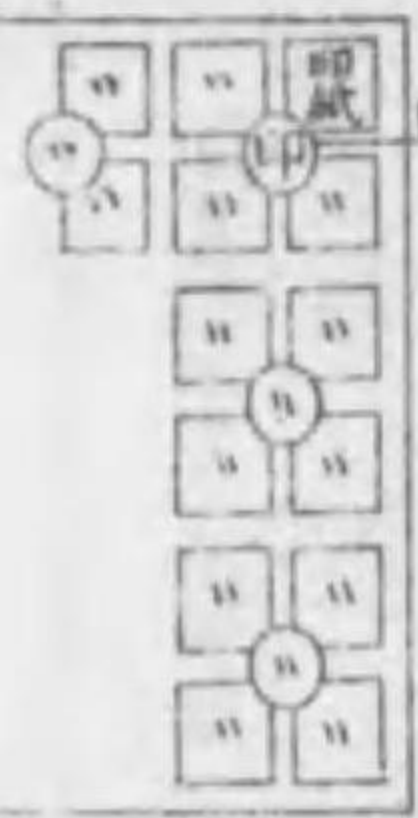
右者、……、

為シ若クハ為替資金ヲ受ケタル
支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振
出人ニ對シ第九條第二十七條ノ
期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ
起算シ第三十五條第三十六條ノ
期限ニ係ル者ハ拒ミ証書ノ日附
ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要
求スルヲ得

年号月日 何誰印
何誰殿

第二号圖

証書日渡主ノ實印



第十節 紛失

第四十條 手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方ホウ法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他證拠トナル可キ手続ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂ヲ止メシム可シ

第三号書式

帳簿主ノ印

實



此帳簿附込見積金何千円

年号月日

第四号書式

第四十一條 手形紛失人ハ振出人

ニ紛失ノ旨ヲ證シ代手形ヲ請受

ケ各裏書人ヲシテ再ビ之ヲ裏書

セシメ更ニ其手形ヲ流通スルヲ

得

但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保

證ヲ立テシムルヲ得

第四十二條 手形紛失人代手形ヲ

帳簿主ノ實印

實



此帳附込何ヶ年限

年号月日

第五号書式

第一類ハ
第二類ハ

合附込金何千何百

受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ
支拂人ニ對シ真正ノ所持人タル
旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルコトヲ
得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ
保證ヲ立テシムルコトヲ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記
載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權

第三類ハ

何年何月ヨリ
何年何月マテ 満何ヶ年
附込済

右之通聊相違無
御座候以上

年号月日 何誰ノ印

(明治七年大藏省達
第八十号)

證券印税規則公希相
成候付テハ管下人
民へ左之通可相違事

ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フ可キ
旨ヲ約束シタル證券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂ニ
シテ金額ハ貳拾圓以上ニ限ル者

トス

第四十五條 為替手形ニ付キ定メ

タル規則ハ第三節第六節其他
約束手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除

一證券印紙貼用セル諸帳簿ハ其表紙ノ端エ(印稅濟)又附込見積金高百圓未滿ニテ印紙貼用ニ及バザル諸帳簿ニハ前全様(無稅帳)ト顯然有稅無稅ノ分別ヲ朱ニテ相記シ取

クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎二一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期

引先ノ便ニ供ヘ候様可致事

但證券印紙貼用アルヘキ諸帳簿ヘ萬一印紙貼用無之伏ニテ授受致シ候節ハ帳簿主ノミナラス取引之上調印致シ

限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第一節第四節及ヒ

第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルヲ得ス

候者ト虫氏証券
 印税規則中賞罰
 例第十二條ノ通り
 ニ候条各自精
 ナク注意可致事
 (明治八年大藏省)
 布達甲第 八号
 人民賤産ノ受授並
 交際上相用候諸
 帳簿ノ儀ハ證券

第一号

○為替手形約束手形書式
セカハテガクヤクソクテロク

為替手形書式 (條例第三條)
セカハテガク
(整四十八分)

表
ハ朱字ナリ

番号	仕入人	受取人	年月日

金、、、圓
 番号 為替手形
 一、金、、、圓 (受取人氏名)
 右金額 (何月何日) 何某殿入
御覽後幾日
 全人指面人へ此手形引換ニ御仕立
 可被成矣也

印税規則之通其類ニ
 應シタル印紙ヲ一帳毎
 ニ類別ヲ以テ貼用可
 致若ニ候得共若シ
 一帳中へ第一類第二
 類ヲ取交セ付込度モ
 モノハ其合計見積
 金高ニ應シタル第一
 類印紙ヲ別紙圖式ノ
 通貼用致置候上ハ一

第二号

全上 (條例第三條)

番号 為替手形 組之一
 一、金、、、圓
 右金額来何月何日何甘示殿又

年月日 何 某 印
 何 何 何 何 番地
 何 某 殿 (振込氏名)
 本文金額ノ下ニ西洋数字ヲ以テ更ニ其金
 額ヲ複記スルモ妨ケテシ尤数字ハ字々密接
 ニ認メ改竄ノ弊ヲ防クニ注意スヘシ

帳簿へ雜記候トモ不
苦候條此旨布達候
事

但第三類帳簿ニ第
一類第二類ヲ雜記致
シ度節ハ第三類ノ
印紙貼用ノ外本文
ニ準シ第二類ノ印
紙ヲ並べ貼用可致
候尤一類而已ヲ雜

面

同人指図人へ此手形引換ニ御仕
拂可被成候也
但此手形御仕拂之上ハ(組之三)
ハ無効クルヘキ事
何縣何村何番地
年月日
何縣何村何番地
何 某印

此手形若シ組ノニナル中ハ但書ニ組之一三云
ヤト記シ組ノ三ナル中ハ但書ニ組之一ニ云ヤト記
スヘシ

第三号
裏書ノ書式 (條例第十四條)

裏 面

表面之金額何某殿又ハ同人指図人
へ御仕拂可被成候也
何縣何村何番地
年月日
何 某印
賣渡人又ハ讓渡人
(姓名)

第四号

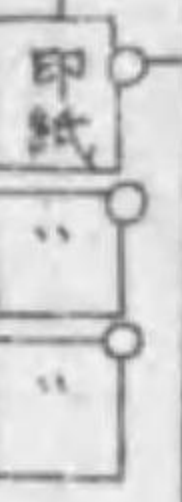
裏書補箋ノ様式 (條例第十六條)

裏 面

裏書
補箋
(裏書ノ書式ハ本紙ノ裏書
ニ合シ)
(補箋ヲ付シタル者ノ定印)

記致ス節ハ第一類
ノ印紙ヲ並べ貼用
可致事
(別紙)

第一類帳簿ニシテ第
二類ヲ雜記シ或ハ第二
類帳簿ニメ第一類ノ
雜記スルモノ書式左
ノ如シ
都テ第二類印紙ヲ貼用
ス
帳簿主ノ實印



第一類第二類合計
此帳附込見積金何千
四
年号月日

第三類帳簿ニシテ第
一類又ハ第二類ヲ雜記
スルモノ書式左ノ如シ
第一類又ハ第二類印
紙ヲ貼用ス
帳簿主ノ實印



此帳附込見積金何千四
年号月日

第三類帳簿ニシテ第
一類第二類ヲ雜記ス
ルモノ書式左ノ如シ
都テ第二類印紙ヲ貼
用ス
帳簿主ノ實印



此帳附込何ヶ年限リ

第五号

別紙保証ノ書式 (條例第十七條)

番号 為替手形

一金、一圓也

右金額来何月何日何某殿又ハ同
人指圖人ハ此手形引換ニ御仕拂
可被成候也

年月日 何縣何村何番地 何 某印
何縣何村何番地 何 某印
右ニ騰写スル本手形ノ金額何某殿ニ
於テ若シ仕拂無之節ハ拙者ニ於テ無相

違仕拂可申候也

年月日 何縣何村何番地 何 某印

保証ノ旨ヲ手形面ニ記載スルハ其保証ヲ
受ル者ノ氏名ノ次ニ左ノ如ク記載スヘシ

右何某保証人
何縣何村何番地 何 某印

第六号

引受ノ書式 (條例第二十二條)

番号 為替手形

第一類第二類合計
此帳附込見積金何
十円
年号月日

○海陸運輸渡世ノ
者証券印紙貼用
方心得書

(明治六年十月大藏省
達第四百四十二号)
一海陸運輸之諸荷
物並貨幣等金
高拾円以上ノ物ハ

荷主へ可相渡請取
證書へ金高二拾ハ
ラス一錢印紙貼用
可致事
一前同断ノ物貨ニ付
金高拾円以上ノ運
搬料請取候節其
請取証書へモ前全
断貼用可致候事
一運輸スヘキ物貨ト

第七号

金額領收ノ書式 (條例第廿八条)

一金、〃、〃、圓
右金額来ル何月何日何某殿又
ハ同人指圖人、此手形引換ニ御
支拂可被成候也
何縣何州何番地
年月日 何某印
何縣何州何番地
何某殿
(本文支拂之儀引受申候也)
(年月日) (何某印)
[支拂人氏名]

東 面

裏書
〃、〃、〃、〃、
〃、〃、〃、〃、
〃、〃、〃、〃、
(表面之金額正ニ受取候也)
(年月日)

何某印
[手形所持人氏名]

第八号

拒之証書ノ書式 (條例第廿九条)

本手形ノ金額 (此ニ拒却ノ事由ヲ記スヘシ)
拙者ニ於テ人引換ノ請求ニ應シ難ク
候也

新撰書式文格

其運搬料トノ讀取
証書ヲ荷主ノ都合
ニ寄リ別通ニセス
シテ一紙証書ヲ
要スル時ハ請取
書面總金高ニテ
拾円内外ノ區別
ヲ分ケ兩種ヲ兼
一錢印紙貼用不
苦候事

但諸物貨及其
運搬料共金高
拾円以下ノ節ハ
双方請取書印
紙貼用不及候得
共一通證書ニ致
シ候節總金高
拾円以上ニ及ビ
候ハ、本文之通
印紙貼付可致候

年月日

何 某印
（支那人氏名）

第九号

條例第三十三條始末書

（支那人拒ミ証書ヲ作ルコトヲ肯セサル時ノ文例）

別紙為替手形（規定期限内ニ於テ引
ヲ請求セシニ支那人何某ニ於テ之ヲ拒
ミ且拒ミ証書ヲ作ルコトヲ肯セサルニ付
條例第三十三條ニ拠リ此ニ其始末ヲ
自記致シ候也

年月日

何 某印
何 某印

前書ノ趣相違無之候也
年月日 郡區役所若夫長 役場 証印

第十号

全上（支拂人住所分明ナラサル時ノ文例）

別紙為替手形（引受）請求ノ為メ
本手形ニ指示シタル支拂人何某住
所何 縣何町村何番地へ至左越候
処住所不分明ニ付條例第三十三條
ニ拠リ此ニ其始末ヲ自記致シ候也

年月日

何 某印
何 某印

事

一 仮令ハ東京ヨリ各所問屋ノ手ヲ経長崎或ハ青森等ニ達スル物貨(金高拾四以上ノ者)ハ請継數回ニ候得共最前甲問屋ヨリ前書箇條ニ照シ印紙アル請取書

第十一号

前書之趣相違無之候也
昨日郡區役所若クハ戸長役場証印

全上(支拂人不在ナル時ノ文例)

別紙為替手形(出受)請求ノ為メ支拂人何某方ハ差越矣間全人不在ニテ代理人無之ニ付條例第三十三條ニ拠リ此ニ其始末ヲ自記致候也
何府何州何番地
何某印
年月日

類ヲ荷主へ相渡シ運輸ノ物貨ニ印紙アル元送狀附着有之候上ハ乙丙丁問屋等ニ於テ授受之證書ハ勿論添送狀等ニ至ル迄渾テ印紙貼用不及候得共長崎青森ノ如キ結尾ノ場所

第十二号

前書之趣相違無之候也

昨日郡區役所若クハ戸長役場証印

約束手形書式(條例第三三條)
(寸方為替手形ニ全シ)

金、、、、圓

番号 約束手形

一金、、、、圓也
右金額未何月何日貴殿又ハ

番号	支取人	日期	附

（其荷物着ノ工
ハ荷請主ヨリ置
候受取證書ハ印
紙貼用可為致候
事

右之通可相心得候事

○増補

民事訴訟用印紙規

則 ○第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス ○第二條 訴訟ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若ク

約束手形ニ関スル裏書ハ全補箋保証領
收拒之證書始末書等ノ書式ハ總テ為
替手形ノ文例ニ準ズベシ

貴殿ノ指圖人へ此手形引換ニ
無相違支拂可申候也

何府何町何番地

年月日

何 某印

何府何町何番地

何 某殿

（振出氏名）

ハ價額ニ應ジ左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用スベシ
金額價額五圓マテ 貳拾錢 同拾圓マテ 三拾錢 同二拾圓マテ
六拾錢 同五拾圓マテ 壹圓五拾錢 同七拾五圓マテ 二圓二
拾錢 同百圓マテ 三圓 同二百五拾圓マテ 六圓五拾錢 同五
百圓マテ 拾圓 同七百五拾圓マテ 拾三圓 同千圓マテ 拾五
圓 同貳千五百圓マテ 二拾圓 同五千圓マテ 二拾五圓 同五
千圓以上八千圓毎ニ 二拾圓ヲ加フ 控訴ニ於テハ右半額上告ニ
於テハ全額ノ印紙ヲ加貼スベシ ○第三條 人事其他金額ニ見積
ル可カラサルモノハ三四ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加
貼スルハ前條ニ同シ但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戸長ノ證書ヲ

所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免ズルコトアル可シ

○第四條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付ニ拾錢ノ印紙ヲ貼用スベシ
答辨書証據物寫辨駁書辨論書上申書陳述書等 證人鑑定人評價人
引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書 審判ノ延期ヲ請求スル願書

○第五條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用スベシ
官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書 財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願
書 執行命令書ヲ請求スル願書 身代限ノ處分ヲ請求スル願書

○第六條 裁判書渡書ノ謄本ヲ下付スル時左出入受取書ニハ其謄
本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ但シ裁判書渡書ノ謄本
壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰ト

ス ○第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時ニ拾錢ノ
印紙ヲ貼用ス可シ ○第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代

價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償ス可キモノトス ○第九條 印紙ノ種類
定價及ビ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム ○第十條 印紙ハ管轄廳
ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ發賣スルコト

ヲ得ズ ○第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ發賣シタル者ハ
二十円以上二百円以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情

ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ四十円以上百円以下ノ罰金ニ處ス仍ホ現
在ノ印紙ヲ沒收ス ○第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑
法ノ不論罪及ビ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒズ

○許用印紙ノ種類定價及ビ貼用方 明治十七年二月廿三日第四号布達

淡黒色印紙 一枚三錢 黒色印紙 同五錢 赭色印紙 同十錢
 茶褐色印紙 同五十錢 黄色印紙 同壹円 青色印紙 同五円
 橙黄色印紙 同十円 緑色印紙 同十五円 橘栗色印紙
 同二十拾円 印紙ハ許狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印草ヲ以
 テ消印ス可シ

○古物商取締條例

明治十六年十二月廿八日第五十号布告

第一條 古物商トハ古道具古本古書画古着古銅鉄遺金銀ヲ賣買ス
 ル營業者ヲ云フ 袋物屋小間物屋靴甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋
 ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ビ刀劍商ハ此條例

ニ準據スベシ ○第二條 古物商ハ管轄廳(東京府ハ警廳)ノ免許ヲ
 受クベシ ○第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ

警察官ニ於テ其物品及ビ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ
 記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スベシ

○第四條 身元詳ナラザル者コリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ
 得ス但身元詳ナル者其証人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可
 ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス ○第五條 十五年未滿ノ者自痴

風癪者及ヒ雇人ニアル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得
 ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其証人タルトキハ此限ニア
 ラズ 官廳町村学校病院社寺會社ノ印章記号アル物品ハ其賣却シ

得ヘキヲ証明スル証人二名以上アルニ非サレバ之ヲ買取リ又ハ交換スルヲ得ズ 前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルヲアルベシ ○第六條 古物商ノ營業者タルト否トヲ問ハズ盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處断ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ビ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クベシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十円以上三百円以下ノ罰金ニ處ス

○第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ビ賣主讓主ノ居室ノ外ニ於テ物品ヲ買取又ハ交換スルヲ得ズ ○第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラザル者及ビ盜罪賭博ノ處断

ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シスハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スルヲ得ズ ○第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスル片又ハ他府縣ヨリ受取リタル片ハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツベシ警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルヲアルズシ但費用ハ届人之ヲ擔當スベシ ○第十條 贓物ノ品觸アル片ハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スベシ ○第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ビ寄藏シタル片若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタル片ハ直ニ所轄警察署ニ届出ツベシ若シ届出デズシテ其由ヲ辦解スルヲ能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同ジ ○第十二條 物品ノ賣買交換

ヲ記載シタル簿冊及び品觸馬書八十年間保存スベシ若シ亡失シタル片ハ直チニ所轄警察署ニ届出ツベシ ○第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ビ簿冊ノ検査ヲ為シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルベシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス ○第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ欺偽ノ届出ヲ為シタル者ハ二百圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス ○第十五條 第六條第十一條第十四條及ビ刑法第三百九十九條第四百條ノ處断ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳東京府ハニ於テ三警察廳以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尚ホ左ノ項目ニ従フベシ

- 一 物品ヲ買取り又ハ交換シタル片ハ其賣主讓主ノ性所氏名年齢及ビ物品ノ形状徽章番號標柄模様價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スベシ
- 二 日出前日没後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ビ寄藏スルコトヲ得ス
- 三 營業者ニアラザル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタル片ハ其物品ヲ原状ノ俵五日間保存スベシ
- 四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタル片ハ其物品ノ形状價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スベシ

五 毎月一度物品高買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出し其検査ヲ受クベシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスル片ハ所轄警察署ノ認可ヲ受クベシ

○第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三田以上三百田以下ノ罰金ニ處ス ○第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタル片ハ直ニ之ヲ納完セシム

若シ納完セザル者ハ留置セラル、トアルベシ ○第十九條 古物高一年内ニ此條例ヲ再犯シタル片ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止ス又ハ停止スルコトヲ得 ○第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ

刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用ヒズ ○第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スベシ若シ被害者知レザル片ハ之ヲ領置シ一年ノ後官没ス ○第二十二條 商業上ニ於テハ家屬又ハ雇人ノ所為ト虽モ營業者某責ニ任スベシ

○第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツベシ

新撰書式文格全大尾

諸國私通書林

東京	日本橋通三丁目	芝三島町	大神宮前	淺草葺屋町	通鹽町	通油町	石町十軒店	大傳馬町三丁目	南傳馬町一丁目	横山町二丁目	心齋橋南一丁目	北谷町四丁目	南久保町四丁目	博勞町四丁目	唐物町四丁目	博勞町四丁目	安土町四丁目	本町四丁目	北久保町四丁目	備後町四丁目
山田	中野	北野	内藤	水島	江島	東島	吉島	松島	橋島	前島	岡島	浅島	中島	赤島	三島	梅島				
佐市兵	吉兵	伊兵	泰兵	慶兵	喜兵	龜兵	半兵	九兵	喜兵	善兵	茂兵	吉兵	勤兵	忠兵	佐兵	龜兵				
工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八	工八				
雲州	長州	筑後	豐前	薩摩	尾州	全州	全州	全州	全州	全州	全州	全州	全州	全州	全州	全州	全州	全州	全州	全州
松江町	萩町	福門	府内	鹿島	名古	全三	全三	全三	全三	全三	全三	全三	全三	全三	全三	全三	全三	全三	全三	全三
園山	松原	林原	山原	吉原	片原	川原	梶原	鬼原	中原	池原	田原	野原	近原	岡原	三原	岡原	平原	矢原		
喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三	喜三
工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門	工門

新刊書式

明治十五年十一月九日版權免許
 同 十六年十二月 刻成發兌
 同 十七年四月九日改正增補御届
 同 年四月三十日刻成發兌

編輯兼出版人

京都府平民

大島細吉

定價金一圓

下京區第十三組八文字字
 十六番戸

京都寺町通四條上七早

發兌人 田中治兵衛

諸國私通書林

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全		
丹	但	丹	伊	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全		
後	馬	波	賀																
官津	峯山	後多	豐岡	福智	龜岡	上野	全	全	全	大津	八幡	彦根	高島	日野	長濱	全	全		
町二丁目	浪花町	久斗村	青田町	山上村	西野町	水野町	屋野町	屋野町	屋野町	新屋町	新屋町	土橋町	河原市	新市町	堂前町	名舟町	小濱		
南	上	成	水	高	内	廣	澤	島	小	古	大	廣	戶	西	中	森	大	大	堀
波	島	田	垣	木	藤	田	林	川	川	内	田	井	田	村	塚	北	口		
庄	長	太郎	嘉三	重兵	半藏	源次	宗次	專平	義次	伊次	幣次	七郎	宗次	平次	藤四	傳兵	茂之	安吉	嘉吉
工	助	治	郎	工	七	藏	郎	郎	平	助	六	郎	助	郎	平	郎	工	助	吉

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
寺	寺	二	御	寺	寺	寺	三	富	五	二	六	三	花	寺	三	三	三	泉	御	
町四條上	町四條下	條倉西	町四條下	町三條上	町三條下	町二條上	條倉東	小路三條上	條倉東	條馬場	角町東	條町西	町西	町池下	町東	町東	町東	町三條上	町小路上	
田	川	島	内	若	辻	神	須	遠	澤	石	小	杉	永	佐	福	大	出	村	藤	
中	勝	林	藤	林	木	先	磨	藤	田	田	川	木	田	木	井	谷	雲	上	井	
治	德	專	彦	喜	九	治	勒	平	友	忠	多	甚	調	源	仁	次	次	勤	孫	
兵	次																			
工	郎	助	一	助	工	助	工	門	郎	工	門	助	工	郎	郎	工	郎	工	工	工

終

